令和5年度
全国学力・学習状況調査
鹿 児 島 県 結 果 分 析

令和5年11月

鹿児島県教育委員会

はじめに

令和5年4月18日，全国学力・学習状況調査が全国の小学校6年生と中学校3年生を対象に行われ，その調査結果が7月末に公表されました。本県における今年度の学力調査の結果については，小学校の国語，算数や中学校の国語においては全国平均正答数とほぼ同等の結果となり，中学校の数学，英語においては全国平均正答数をやや下回っているものの，前回調査よりも全国平均正答数との差が縮まった結果となりました。このことから，各市町村教育委員会及び各学校における取組の成果により，全体としてみれば，着実に学力が定着しつつあると受け止めております。

一方で，育成をめざす資質・能力のうち，「学びに向かう力，人間性等」については，例えば，質問紙の「自分にはよいところがあると思うか」という自己肯定感に関する項目や，「課題の解決に向けて，自分で考え，自分から取り組んでいたか」という主体的に学習に取り組む態度，「自分で計画を立てて勉強しているか」という自己調整力に関する項目などについては，低いばかりか，全国平均以下であるという結果になっており，前回調査から課題が継続していると受け止めています。

こうした「学びに向かう力，人間性等」が高まることで，「知識及び技能」や「思考力，判断力，表現力等」の定着や伸びも相乗的・総合的に高くなると考えられることから，県教育委員会としては，「個別最適な学び」や「協働的な学び」とも相性の良い，一人一台端末などのICT機器も活用しつつ，「学びに向かう力，人間性等」もバランスよく育成するよう，指導等を行っているところです。その実現に当たっては「主体的・対話的で深い学び」の視点からの授業改善が不可欠です。データとしても，ICTの活用や「主体的・対話的で深い学び」に取り組む児童生徒ほど，平均正答率が高い結果となっていることから，そうした学びの根底には「学習者主体」であることが当然に求められるものであると考えており，「学習者主体の授業」の提案を行ってきました。そのことを踏まえ，本報告書では，こうした「学びに向かう力，人間性等」も含めた「確かな学力」は身に付いているか，また，「学習者主体の授業」への転換は図られているか，という2つ視点で考察を述べているところです。

各市町村教育委員会及び各学校においては，今回の調査結果を徹底的に分析し，成果や課題等を明らかにするとともに，教育指導の充実や学習状況の改善につなげてください。そのためには，単純に平均正答数などの差のみをもって評価するのではなく，分析や評価に際しては，児童生徒個々の誤答傾向や学習状況，標準偏差や中央値，分布の状況などと合わせて総合的に結果の分析等を行うとともに，それぞれの教科や学年にとどまらず，学校全体で課題を共有し，これまでの授業実践や指導法等を振り返りつつ，どのような取組が成果を更に伸ばし，課題克服につながるのかを深く追究し，今後の改善策を具体的に検討してください。

県教育委員会としても，子供たちの「確かな学力」の定着に向け，全力で取り組んでまいりますので，各市町村教育委員会及び各学校におかれましても，本報告書も活用しながら，引き続き，児童生徒の「確かな学力」の定着が図られるよう取組をお願いします。

目　次

○　県全体の調査結果〔公立〕

１　教科に関する調査の結果概要
（１）　小学校６年　平均正答数・平均正答率　１
（２）　中学校３年　平均正答数・平均正答率

２　教科別，観点別及び領域別の結果概要
（１）　小学校国語　２
（２）　小学校算数　３
（３）　中学校国語　４
（４）　中学校数学　５
（５）　中学校英語　６

３　総括及び考察
○　総括　７
○　考察①　「確かな学力」は身に付いているか　８
○　考察②　学習者主体の授業への転換は図られているか　１２

４　指導法改善のポイント
○　国語【小学校第６学年】　１７
○　国語【中学校第３学年】　１９
○　算数【小学校第６学年】　２１
○　数学【中学校第３学年】　２３
○　英語【中学校第３学年】　２５

（参考）令和５年度全国学力・学習状況調査　児童生徒質問紙　結果概要
（１）　児童質問紙【小学校】の結果概要
（２）　生徒質問紙【中学校】の結果概要
（３）　学校質問紙【小学校】の結果概要
（４）　学校質問紙【中学校】の結果概要

○　市町村別の「学習者主体の授業」実践例
※　後日，県HPにアップロード

１　教科に関する調査の結果概要

令和５年度全国学力・学習状況調査　平均正答数・平均正答率

⑴　小学校６年　平均正答数・平均正答率

小学校では，国語，算数ともに，令和４年度とほぼ同等の平均正答率となった。

また，全国の平均正答数と比べると，国語，算数とも，ほぼ同等の結果となった。

	国　語		算　数	
	鹿児島県	全　国	鹿児島県	全　国
令和５年度	9.4/14問 （67％ ※1）	9.4/14問 （67.2％ ※2）	9.8/16問 （61％）	10.0/16問 （62.5％）
【参考】 令和４年度	9.3/14問 （66％）	9.2/14問 （65.6％）	10.1/16問 （63％）	10.1/16問 （63.2％）

※1　県平均正答率は，小数第一位を四捨五入した値（整数値）である。

※2　全国平均正答率は，小数第二位を四捨五入した値である。

⑵　中学校３年　平均正答数・平均正答率

中学校では，国語，数学において，令和４年度とほぼ同等の平均正答率となった。英語は前回調査を行った平成３１年度よりも低い平均正答率となった。

また，全国の平均正答数と比べると国語は同等の結果となった。数学と英語は全国の平均正答数よりはやや低いものの，それぞれ前回調査より差が縮まっている。

	国　語		数　学		英　語 ※H31との比較	
	鹿児島県	全　国	鹿児島県	全　国	鹿児島県	全　国
令和５年度	10.5/15問 （70％）	10.5/15問 （69.8％）	7.2/15問 （48％）	7.6/15問 （51.0％）	7.2/17問 （42％）	7.7/17問 （45.6％）
【参考】 令和４年度	9.7/14問 （69％）	9.7/14問 （69.0％）	6.6/14問 （47％）	7.2/14問 （51.4％）	11.2/21問 （53％）	11.8/21問 （56.0％）

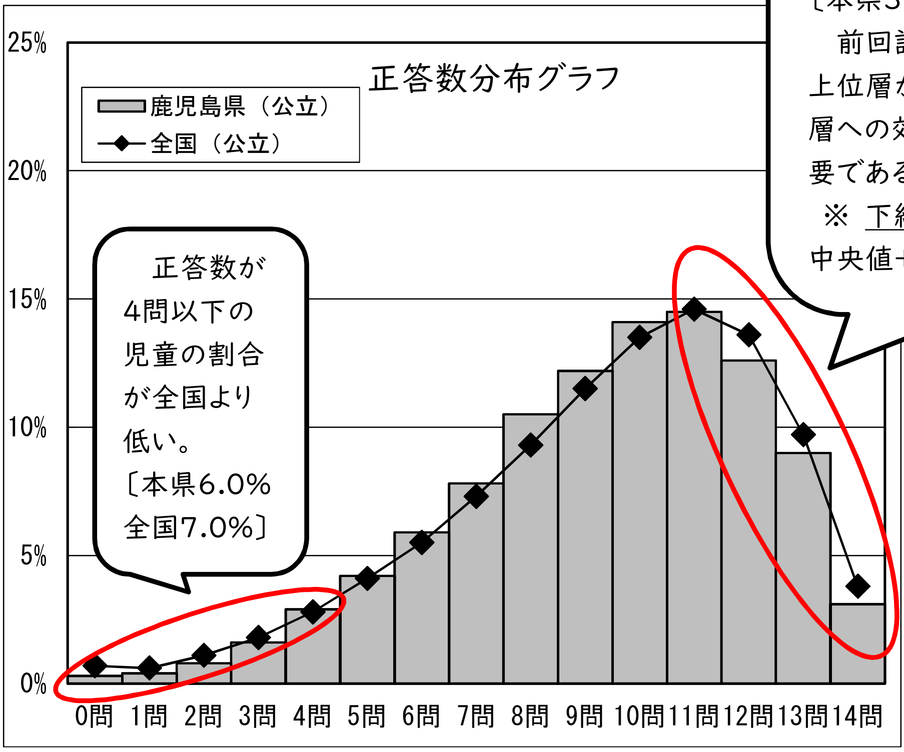
⑶　無解答率

無解答率がすべての教科で全国以下であり，粘り強く取り組んでいることが分かる。

	国　語		算　数・数　学		英　語	
	鹿児島県	全　国	鹿児島県	全　国	鹿児島県	全　国
小学校６年	３．０％	４．８％	２．４％	２．４％	－	－
中学校３年	３．９％	４．６％	８．８％	９．６％	5.1％	5.7％

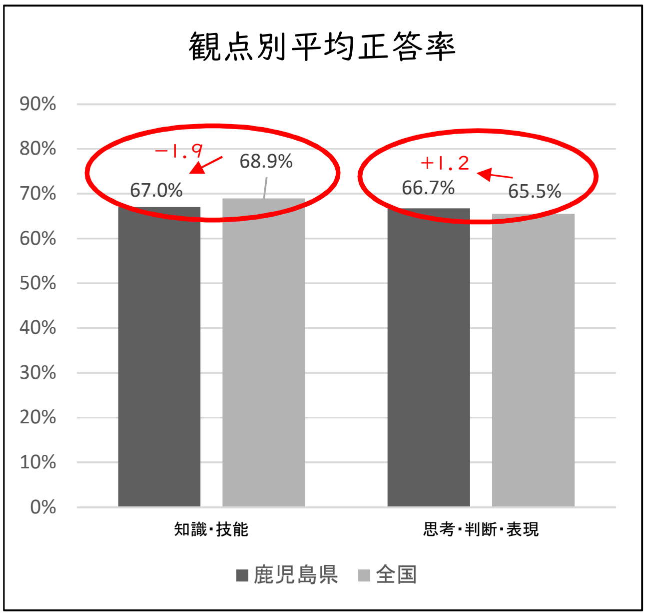
2 教科別，観点別及び領域別の結果概要

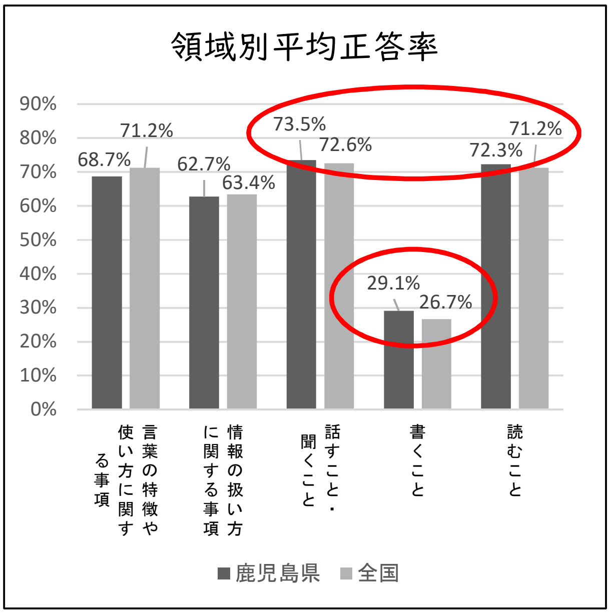
(1) 小学校国語



11問以上正答した児童の割合が全国より低い。
〔本県39.2% 全国41.7%〕
前回調査〔本県40.5%〕より上位層が減少したことから，中位層への効果的な指導の継続が必要である。
※ 下線の値は全国（公立）の中央値＋1問にそろえている。

鹿児島県中央値 10.0
全 国 中 央 値 10.0

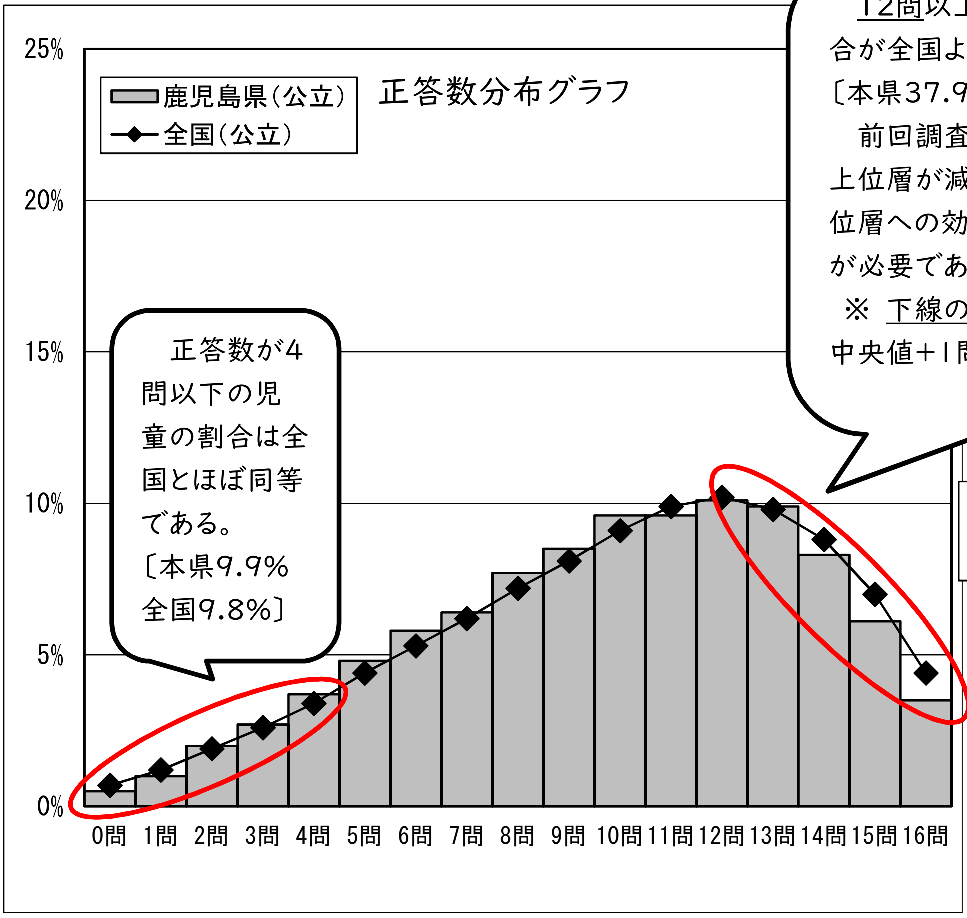




知識・技能については，前回の調査では全国の平均との差が+2.5であったが，今回の調査では−1.9となっている。
思考・判断・表現については，前回の調査では全国の平均との差が−0.8であったが，今回の調査では+1.2となっている。

5領域のうち，3領域で全国の正答率を上回っている。「書くこと」は，前回調査から引き続き全国の正答率を上回っている。
「話すこと・聞くこと」と「読むこと」の領域は前回調査は全国の平均正答率より低かったが，今回調査は全国の平均正答率を上回っている。

(2) 小学校算数



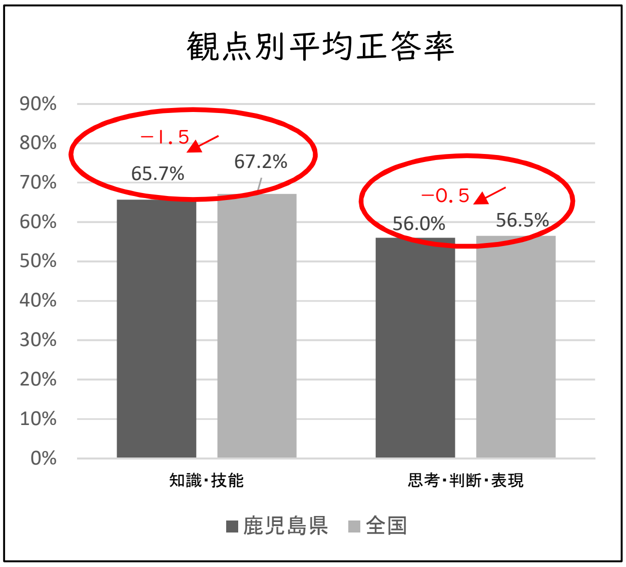
正答数が4問以下の児童の割合は全国とほぼ同等である。〔本県9.9% 全国9.8%〕

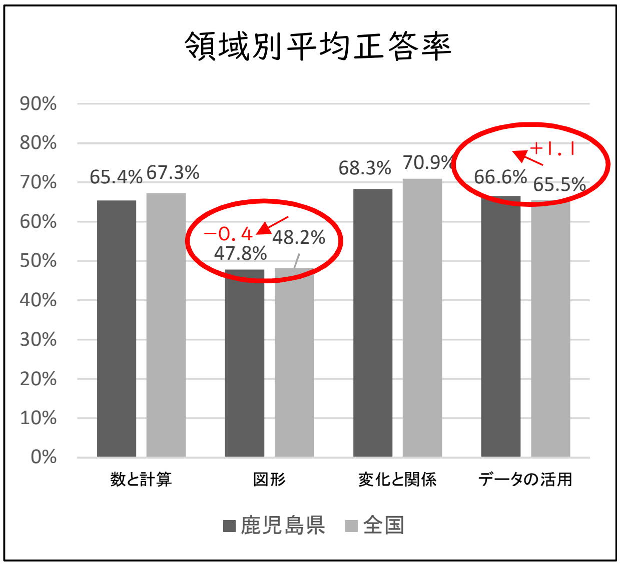
12問以上正答した児童の割合が全国より低い。〔本県37.9% 全国40.2%〕

前回調査〔本県39.6%〕より上位層が減少したことから，中位層への効果的な指導の継続が必要である。

※ 下線の値は全国（公立）の中央値+1問にそろえている。

鹿児島県中央値 10.0
全 国 中 央 値 11.0





知識・技能については，前回の調査では全国平均と同等であったが，今回の調査では-1.5となっている。

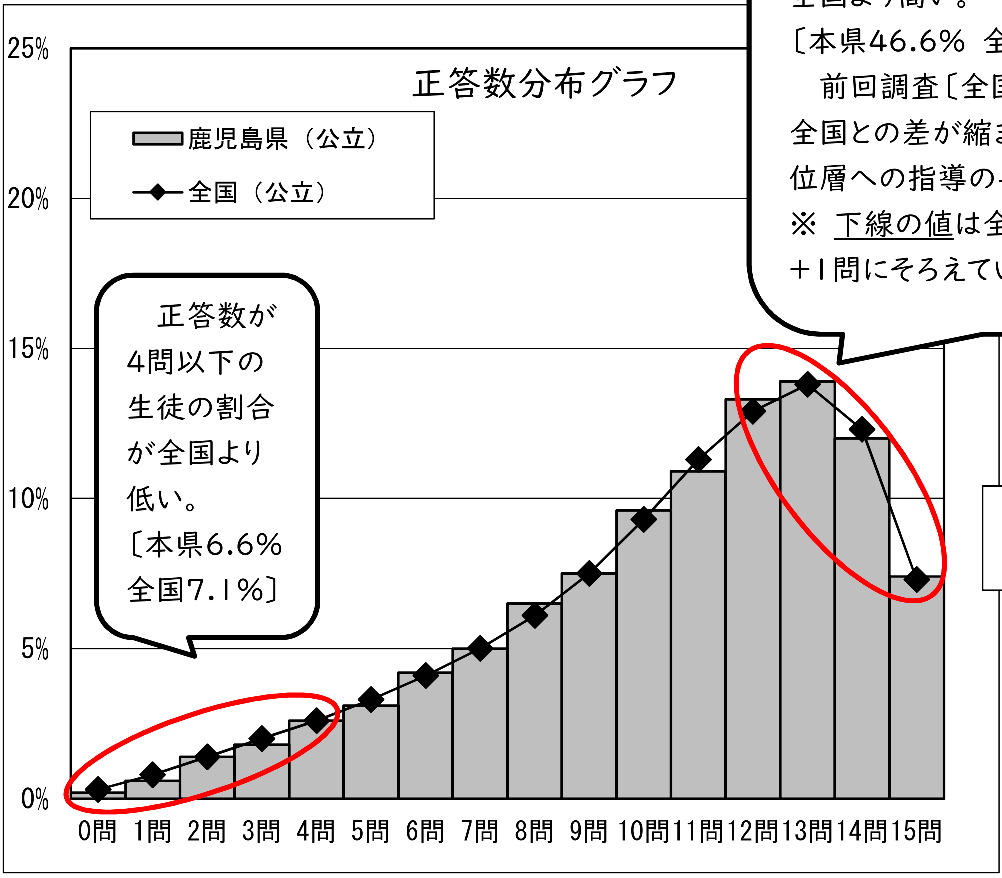
思考・判断・表現については，前回の調査では全国の平均との差が-0.8であったが，今回の調査では-0.5となっている。

4領域のうち，1領域で全国の正答率を上回っている。

「データの活用」の領域は前回調査は全国の平均正答率との差は-2.1であったが，今回調査は+1.1となっている。

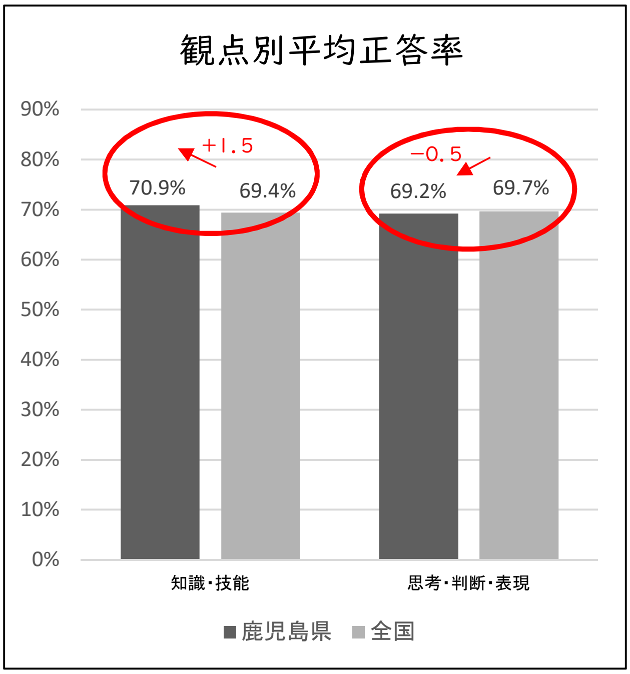
「図形」の領域は前回調査は全国の平均正答率との差は-1.9であったが，今回調査は-0.4と差が縮まっている。

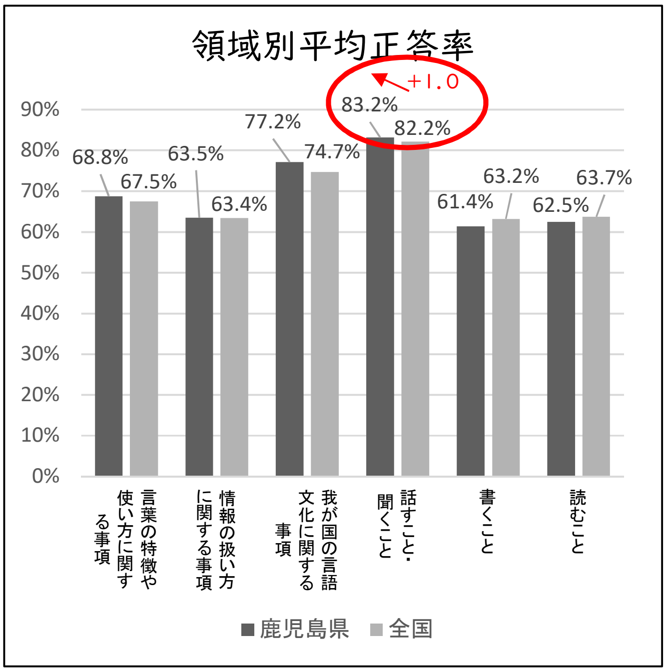
（3） 中学校国語



12問以上正答した生徒の割合が全国より高い。
〔本県46.6% 全国46.3%〕
前回調査〔全国との差+1.5〕より，全国との差が縮まっていることから，中位層への指導の手立てが必要である。
※ 下線の値は全国（公立）の中央値+1問にそろえている。

鹿児島県中央値 11.0
全 国 中 央 値 11.0

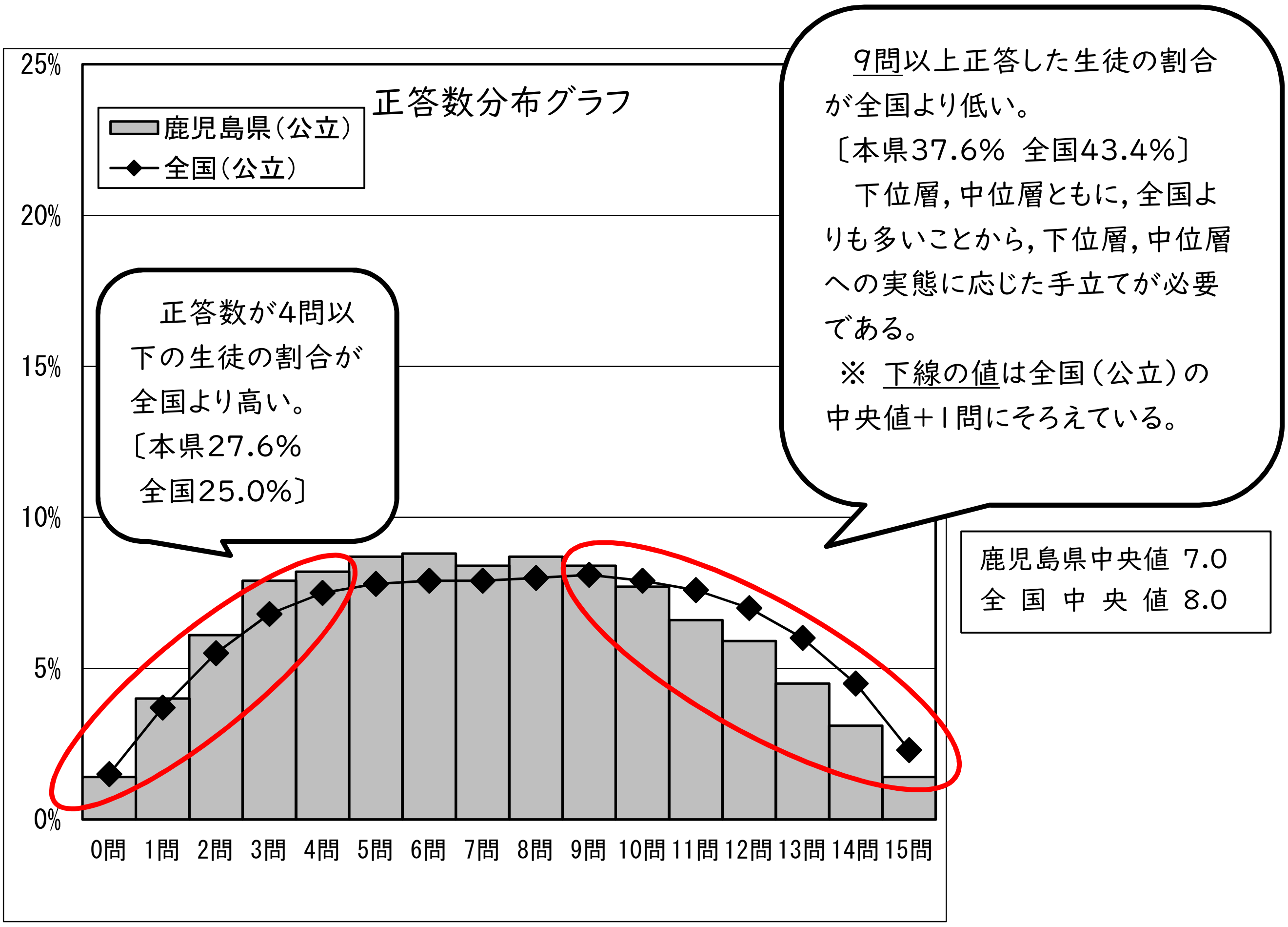


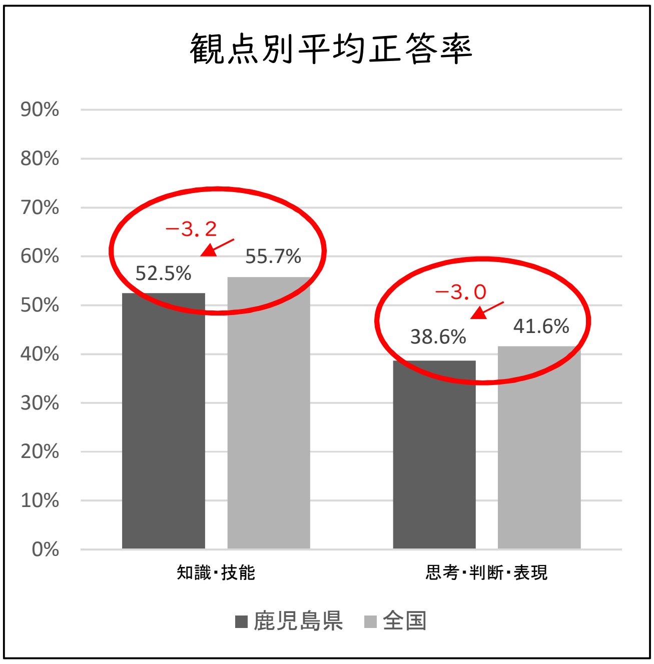


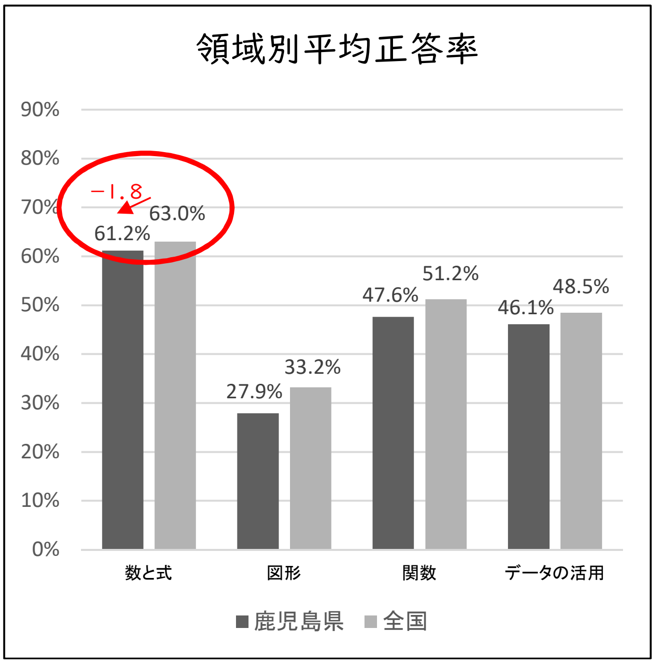
知識・技能については，前回の調査では全国の平均との差が+1.3であったが，今回の調査では+1.5となっている。
思考・判断・表現については，前回の調査では全国の平均との差が+0.3であったが，今回の調査では-0.5となっている。

6領域のうち，前回調査では全国の正答率を3領域で上回っており，今回調査では4領域において全国の平均正答率を上回った。
前回調査の「話すこと・聞くこと」は全国の正答率との差は-0.1であったが，今回調査では+1.0上回っている。

(4) 中学校数学







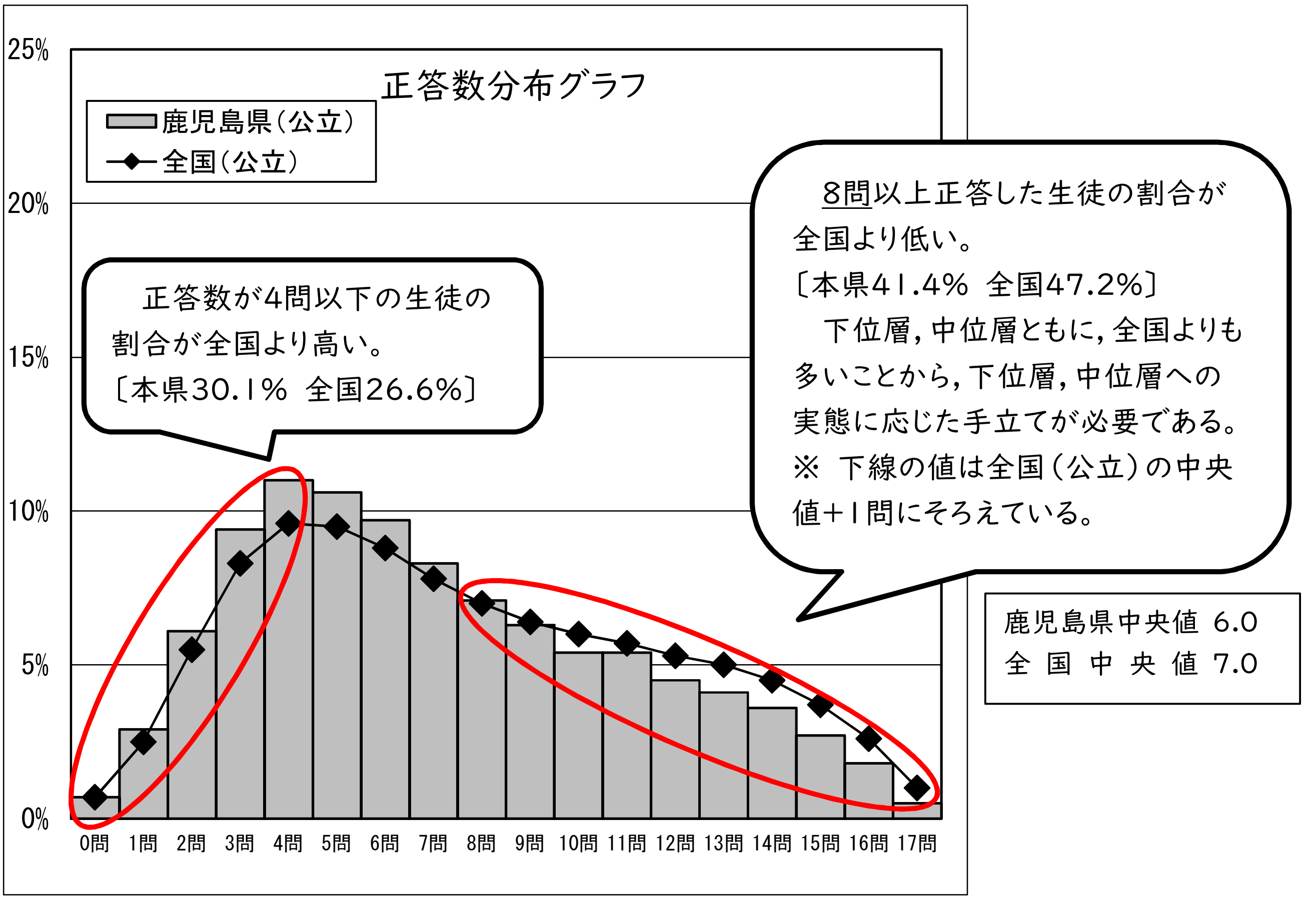
知識・技能，思考・判断・表現ともに，全国の平均を下回っている。

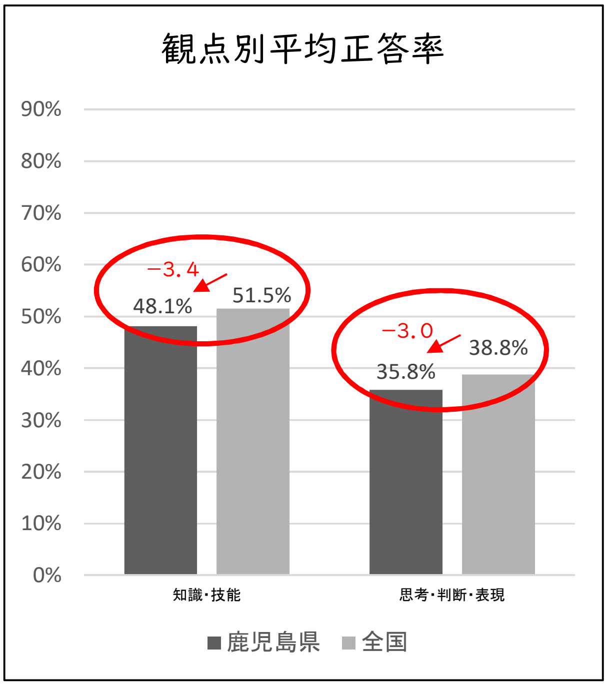
知識・技能については，前回の調査から全国の平均との差が-4.9から-3.2に，思考・判断・表現については，全国の平均との差が-2.9から-3.0になっている。

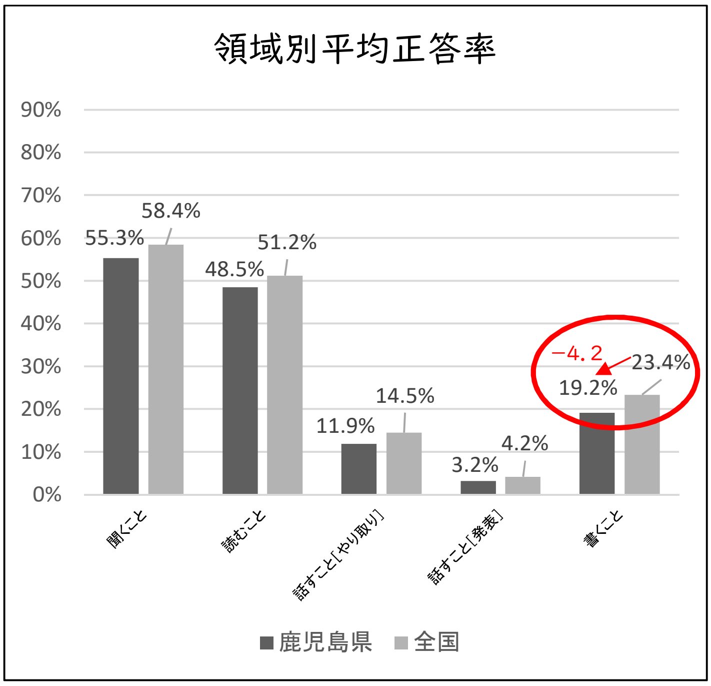
4領域すべてにおいて，全国の正答率を下回っている。

前回調査の「数と式」は全国の平均正答率と比べると-6.3だったものが，今回調査の「数と式」は-1.8に縮まってきている。

（5） 中学校英語







知識・技能，思考・判断・表現ともに，全国の平均を下回っている。
本観点による調査は今回が初めてであり，前回調査とは比較はできないが，知識・技能については，全国の平均との差が−3.4，思考・判断・表現については，−3.0となっている。

5領域すべてにおいて，全国の平均正答率を下回っている。
特に，「書くこと」の領域において，全国の平均正答率と差は−4.2となっており，その差が大きい。

3 総括及び考察

総括　これからの時代を生きる子供たちに必要な学力とは
～第4期教育振興基本計画を踏まえて～

○ 令和5年6月16日，第4期教育振興基本計画が閣議決定された。
○ その中では，「2040 年以降の社会を見据えた持続可能な社会の創り手の育成」及び「日本社会に根差したウェルビーイングの向上」の2点がコンセプトとして掲げられている。
○ 「2040 年以降の社会を見据えた持続可能な社会の創り手の育成」に向けては，
・ 将来の予測が困難な時代において，未来に向けて自らが社会の創り手となり，課題解決などを通じて，持続可能な社会を維持・発展させていくこと，
・ 社会課題の解決を，経済成長と結び付けてイノベーションにつなげる取組や，一人一人の生産性向上等による，活力ある社会の実現に向けた「人への投資」，
・ Society5.0 で活躍する，主体性，リーダーシップ，創造力，課題発見・解決力，論理的思考力，表現力，チームワークなどを備えた人材の育成
が重視されているとともに，
○ 「日本社会に根差したウェルビーイングの向上」に向けては，
・ 多様な個人それぞれが幸せや生きがいを感じるとともに，地域や社会が幸せや豊かさを感じられるものとなるための教育の在り方を追究し，
・ 幸福感，学校や地域でのつながり，利他性，協働性，自己肯定感，自己実現等が含まれ，協調的幸福と獲得的幸福のバランスを重視しつつ，
・ 日本発の調和と協調（Balance and Harmony）に基づくウェルビーイングを発信すること
が重要であると述べられている。

○ こうした時代を生きる子供たちに対して，学びの動機付けや幅広い資質・能力を育成するためにも，「正解（知識）の暗記」，「正解主義」への偏りから脱却し，「主体的・対話的で深い学び」の視点からの授業改善を行っていくことは，不可欠である。
○ その上で，「知識及び技能」の習得，「思考力，判断力，表現力等」の育成，「学びに向かう力，人間性等」の涵養という，資質・能力の三つの柱をバランスよく育成することが重要である。
○ これらをバランスよく育成することにより，それぞれの資質・能力は互いに影響し合い，相乗的・総合的に高まると考えられる。
○ とりわけ，非認知能力と言われる挑戦心や自己肯定感，自己調整力といった「見えない学力」である「学びに向かう力，人間性等」については，学力を支える土台となる重要な資質・能力である。
○ このような「見えない学力」も重視し，子供たちの「確かな学力」を向上させることは，先に述べた第4期教育振興基本計画で求められる持続可能な社会の創り手の育成にもつながり，ひいてはウェルビーイングの向上につながるものであると考えられる。

○ こういった視点から，本調査の結果を分析し，全国や昨年度の本県の結果との比較を行うことによって，本年度，県教育委員会が提案している「学習者主体の授業」が実現されているかを分析し，報告書としてまとめていきたい。
○ 各市町村教育委員会，各学校においては，本報告書を活用するとともに，それぞれの課題を分析し，実態に応じた指導に役立ててほしいと考える。

考察①　「確かな学力」は身に付いているか

１　学力の状況

(1)「知識・技能」及び「思考・判断・表現」について（「目に見える学力」について）

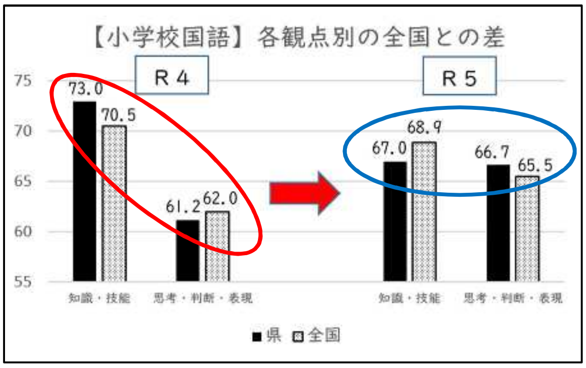
分析結果のポイント

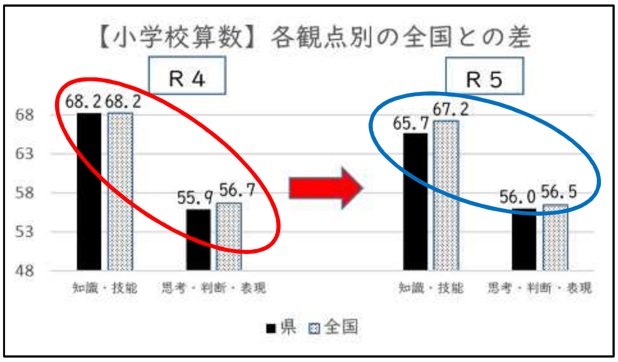
○ これまでの調査において，「知識・技能」と「思考・判断・表現」の平均正答率の差があり，バランスが悪い点が課題となっていたが，本年度調査ではその差がなくなりつつある。

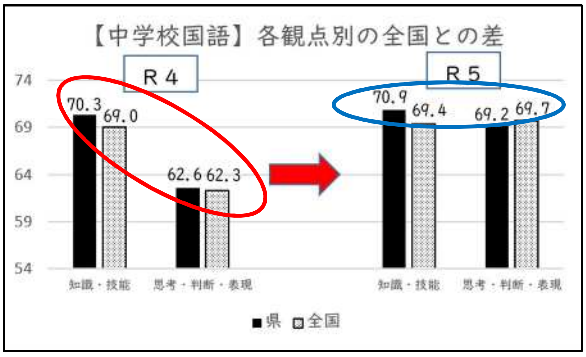
［表１］各教科の観点別正答率

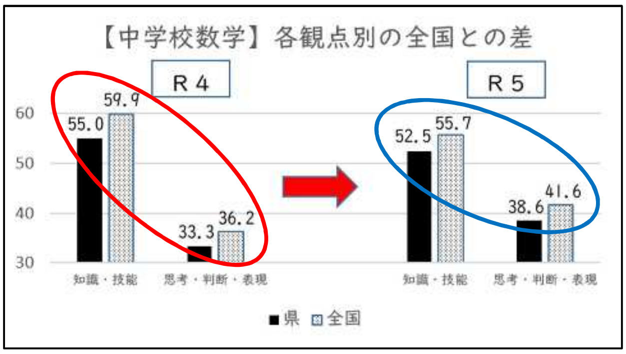
鹿児島県		小学校			中学校		
教科	観点	県平均	全国平均	差	県平均	全国平均	差
国語	知識・技能	67.0	68.9	-1.9	70.9	69.4	1.5
	思考・判断・表現	66.7	65.5	1.2	69.2	69.7	-0.5
算数 数学	知識・技能	65.7	67.2	-1.5	52.5	55.7	-3.2
	思考・判断・表現	56.0	56.5	-0.5	38.6	41.6	-3.0
英語	知識・技能	－	－	－	48.1	51.5	-3.4
	思考・判断・表現	－	－	－	35.8	38.8	-3.0

※　県平均，全国平均の数値は平均正答率（％）









※　H31時点では，「知識・技能」「思考・判断・表現」の観点ではなかったため，英語調査の比較は行っていない。

(2) 「学びに向かう力，人間性等」について（「目に見えない学力」について）

分析結果のポイント

○ 「学びに向かう力」の土台となる自己肯定感や挑戦心，メタ認知等の「非認知能力」において，全国よりも下回る結果となっており，依然として課題が継続している。

［表２］児童生徒質問紙から（全国と鹿児島県の昨年度・本年度の比較）

質問項目		小学校			中学校		
		県平均	全国平均	差	県平均	全国平均	差
自分によいところがあると思うか。【自己肯定感】	R4 ↓ R5	32.4 ↓ 35.5	39.4 ↓ 42.6	-7.0 ↓ -7.1	29.1 ↓ 30.9	36.0 ↓ 37.2	-6.9 ↓ -6.3
先生は，あなたのよいところを認めてくれていると思うか。【自己肯定感】	R4 ↓ R5	38.8 ↓ 45.2	46.3 ↓ 49.9	-7.5 ↓ -4.7	32.1 ↓ 33.7	39.9 ↓ 40.0	-7.8 ↓ -6.3
自分で計画を立てて勉強しているか。【自己調整力】	R4 ↓ R5	24.1 ↓ 25.7	27.5 ↓ 28.7	-3.4 ↓ -3.0	14.4 ↓ 15.3	15.4 ↓ 15.3	-1.0 ↓ 0
学習した内容について，分かった点や，よく分からなかった点を見直し，次の学習につなげているか。【メタ認知】	R4 ↓ R5	33.3 ↓ 31.4	33.2 ↓ 31.0	0.1 ↓ 0.4	24.2 ↓ 22.5	25.6 ↓ 23.1	-1.4 ↓ -0.6
普段の生活の中で，幸せな気持ちになることはどれくらいあるか。【ウェルビーイング】	R5	49.2	49.9	-0.7	39.2	40.9	-1.7

※ 数値は「当てはまる」と回答した割合（%）

2 非認知能力の状況

(1) 自己肯定感について

分析結果のポイント

○ 教師が「児童一人一人のよい点や可能性を見つけ評価する（褒めるなど）取組を行った」と回答した割合は小学校では減少し，中学校では増加した。
○ 「先生はあなたのよいところを認めてくれていると思う」と回答した児童生徒の割合は小学校・中学校ともに増加した。特に小学校児童は6.4ポイント増加した。中学校生徒も1.6ポイント増加しており，全国との差は小・中ともに縮まってはいるものの，依然，全国よりも低い状況である。

［表３］学校質問紙から（全国と鹿児島県の昨年度・本年度の比較）

質問項目		小学校			中学校		
		県平均	全国平均	差	県平均	全国平均	差
学校生活の中で，児童（生徒）一人一人のよい点や可能性を見つけ評価する（褒めるなど）取組を行いましたか。	R4 ↓ R5	63.5 ↓ 60.5	59.0 ↓ 60.8	4.5 ↓ -0.3	56.0 ↓ 56.9	55.2 ↓ 54.8	0.8 ↓ 2.1

［表４］児童生徒質問紙から（全国と鹿児島県の昨年度・本年度の比較）

質問項目		小学校			中学校		
		県平均	全国平均	差	県平均	全国平均	差
先生は，あなたのよいところを認めてくれていると思いますか。	R4 ↓ R5	38.8 ↓ 45.2	46.3 ↓ 49.9	-7.5 ↓ -4.7	32.1 ↓ 33.7	39.9 ↓ 40.0	-7.8 ↓ -6.3

(2) 自己調整力について

分析結果のポイント

○「自分で計画を立てて勉強している」と回答した児童生徒の割合は若干ではあるが昨年度よりも増加しており，全国との差も縮まっているが，「分かった点やよく分からなかった点を見直し，次の学習につなげている」と回答した児童生徒の割合は減少している。

［表５］児童生徒質問紙から（全国と鹿児島県の昨年度・本年度の比較）

質問項目		小学校			中学校		
		県平均	全国平均	差	県平均	全国平均	差
自分で計画を立てて勉強しているか	R4 ↓ R5	24.1 ↓ 25.7	27.5 ↓ 28.7	-3.4 ↓ -3.0	14.4 ↓ 15.3	15.4 ↓ 15.3	-1.0 ↓ 0

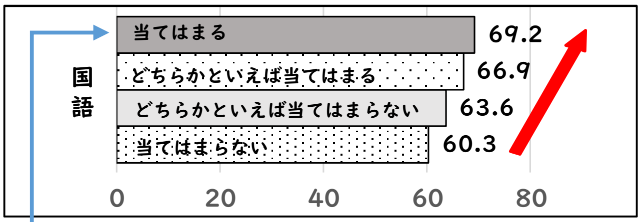
［表６］児童生徒質問紙から（全国と鹿児島県の昨年度・本年度の比較）

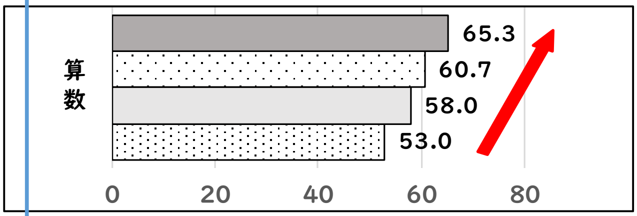
質問項目		小学校			中学校		
		県平均	全国平均	差	県平均	全国平均	差
分かった点やよく分からなかった点を見直し，次の学習につなげているか	R4 ↓ R5	33.3 ↓ 31.4	33.2 ↓ 31.0	0.1 ↓ 0.4	24.2 ↓ 22.5	25.6 ↓ 23.1	-1.4 ↓ -0.6

コラム　「非認知能力」と目に見える学力の関係　～クロス集計結果から～

「自分には，よいところがあると思いますか」の調査項目について，肯定的に回答している児童生徒の方が，国語，算数・数学，英語において平均正答率が高い傾向にある。

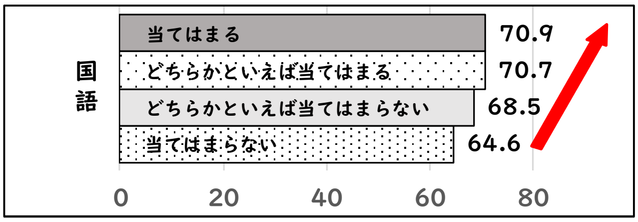
※　数値は鹿児島県の平均正答率である。

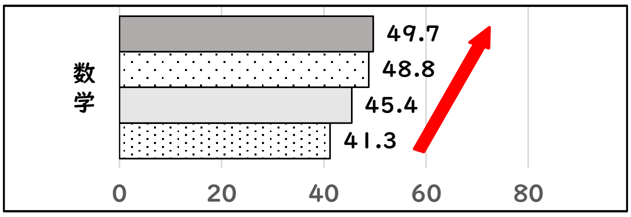


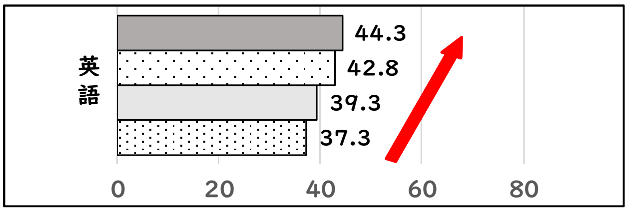


【小学校】

～表の見方～
例えば，【小学校】国語において，「自分には，よいところがあると思いますか」の調査項目について「当てはまる」と回答した児童の平均正答率が69.2%であることを示している。







【中学校】

分析結果のポイント

○ 「知識・技能」と「思考・判断・表現」のバランスの悪さが改善。

分析結果のポイント

○ 「非認知能力」において，依然課題が継続。

分析結果のポイント

○ 教師が「児童一人一人のよい点や可能性を見つけ評価する（褒めるなど）取組を行った」と回答した割合は小学校では減少したものの，中学校では増加。

○ 「先生はあなたのよいところを認めてくれていると思う」と回答した児童生徒の割合は小学校・中学校ともに増加し，全国との差はどちらも縮まってはいる

分析結果のポイント

○ 「自分で計画を立てて勉強している」と回答した児童生徒の割合は若干ではあるが昨年度よりも増加しており，全国との差も縮まっているが，「分かった点やよく分からなかった点を見直し，次の学習につなげている」と回答した児童生徒の割合は減少。

考察① 「確かな学力」は身に付いているか

○ 「確かな学力」を身に付けるためには，「知識及び技能」，「思考力，判断力，表現力等」「学びに向かう力，人間性等」の三つの資質・能力をバランスよく育成する必要がある。

○ 習得した「知識及び技能」を活用しながら「思考力，判断力，表現力等」を身に付けたり，あるいは「思考力，判断力，表現力等」を発揮する中で，新たな「知識及び技能」を習得したりするということもあるため，「習得と活用のバランス」が重要である

○ そういった意味において，これらの差が縮んだことについては，評価できる。

○ 一方で，全国平均正答率との差がある中学校数学，英語については依然，課題があるため，P17 からの具体的な指導法も参考にしつつ，継続した指導を行っていただきたい。

○ また，もう一つの重要な資質・能力である「学びに向かう力，人間性等」については，例えば，自己肯定感に関する項目や，自己調整力に関する数値が全国以下であることなど，前回調査に引き続き，課題が残る結果となった。

○ こういった結果からも，子供たちに「確かな学力」が身に付いているとは言い難い状況であり，我々教師はこれらの結果を真摯に受け止め，改善を図っていく必要がある。

○ 子供たちが「確かな学力」を身に付けるためには，各教科等における「見方・考え方」を働かせながら，自ら課題を発見したり，他者と協働して問題解決を行ったり，問題解決の過程を振り返り，自己調整を図ったりする授業を行っていく必要があり，これは，これまでも大切にしてきた「主体的・対話的で深い学び」の視点を重視した授業に他ならない。

○ 子供たちが「学習者主体」となって学習していくためにも，このような授業をとおして身に付ける「知識及び技能」の習得，「思考力，判断力，表現力等」の育成は不可欠であると同時に，「自己肯定感」などの非認知能力の育成も不可欠である。

○ 現に，「コラム」に記載したとおり，「自分には，よいところがあると思いますか」の調査項目について肯定的に回答している児童生徒の方が，国語，算数・数学，英語における平均正答率が高い傾向があることも分かる。

○ こういった分析結果を念頭に置きつつ，三つの資質・能力をバランスよく，一体的に育成していくことで，引き続き「確かな学力」の育成を目指してほしい。

考察②　「学習者主体の授業」への転換は図られているか

１「主体的・対話的で深い学び」に関する調査における教師と児童生徒の意識の差について

分析結果のポイント

○ 教師が「解決に向けて，自分で考え，自分からできていると思う」，「話し合いなどの活動で，自分の考えを深めたり，広げたりすることができていると思う」，と回答した割合は，小学校ではやや増加が見られ，中学校ではどちらの項目も減少した。

○ 児童生徒が「課題の解決に向けて，自分で考え，自分から取り組んでいた」，「話し合う活動を通じて，自分の考えを深めたり，広げたりすることができた」，「自分にあった教え方，教材，学習時間になどになっていた」と回答した割合は，小学校，中学校ともに若干の増加が見られたものの，全国よりも下回っている状況である。

○ 前回調査に引き続き，小学校においては，「主体的・対話的で深い学び」に関する項目に肯定的に回答する割合が，教師は全国よりも高いにもかかわらず，児童はそのように実感していないという結果となった。

［表７］学校質問紙から（全国と鹿児島県の昨年度・本年度の比較）

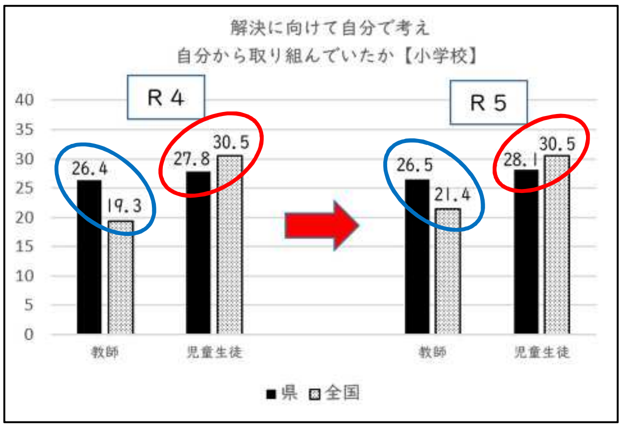
質問項目		小学校			中学校		
		県平均	全国平均	差	県平均	全国平均	差
解決に向けて，自分で考え，自分からできていると思うか。【主体的な学び】	R4 ↓ R5	26.4 ↓ 26.5	19.3 ↓ 21.4	7.1 ↓ 5.1	17.7 ↓ 17.1	19.2 ↓ 19.2	-1.5 ↓ -2.1
話し合いなどの活動で，自分の考えを深めたり，広げたりすることができていると思うか。【協働的な学び】	R4 ↓ R5	18.4 ↓ 21.2	15.1 ↓ 17.4	3.3 ↓ 3.8	14.4 ↓ 12.8	20.3 ↓ 20.3	-5.9 ↓ -7.5
習得・活用及び探究の学習過程を見通した指導方法の改善及び工夫を行ったか。【指導方法改善】	R4 ↓ R5	34.6 ↓ 31.8	21.2 ↓ 20.9	13.4 ↓ 10.9	23.9 ↓ 18.5	20.7 ↓ 19.6	3.2 ↓ -1.1

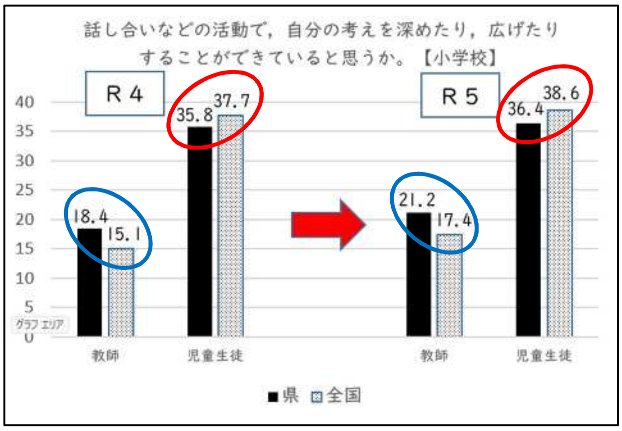
※　数値は「当てはまる」と回答した割合（％）

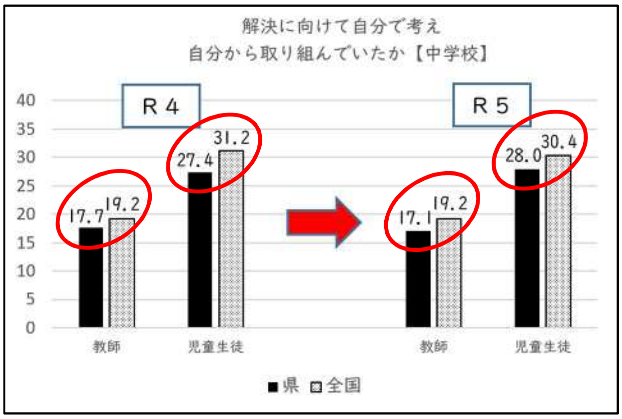
［表８］児童生徒質問紙から（全国と鹿児島県の昨年度・本年度の比較）

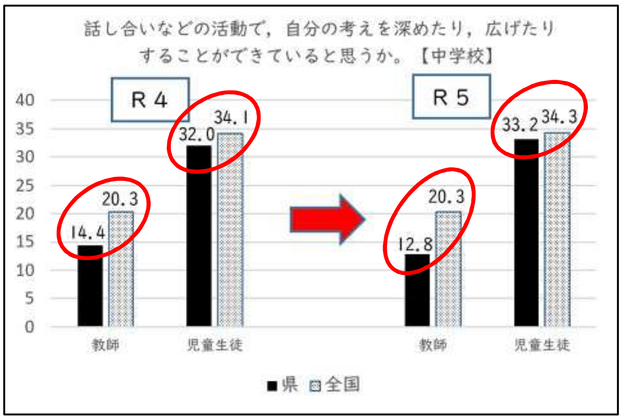
質問項目		小学校			中学校		
		県平均	全国平均	差	県平均	全国平均	差
課題の解決に向けて，自分で考え，自分から取り組んでいたか。【主体的な学習】	R4 ↓ R5	27.8 ↓ 28.1	30.5 ↓ 30.5	-2.7 ↓ -2.4	27.4 ↓ 28.0	31.2 ↓ 30.4	-3.8 ↓ -2.4
話し合う活動を通じて，自分の考えを深めたり，広げたりすることができたか。【協働的な学び】	R4 ↓ R5	35.8 ↓ 36.4	37.7 ↓ 38.6	-1.9 ↓ -2.2	32.0 ↓ 33.2	34.1 ↓ 34.3	-2.1 ↓ -1.1
自分にあった教え方，教材，学習時間になどになっていたか。【個別最適な学び】	R4 ↓ R5	38.0 ↓ 39.4	36.7 ↓ 37.3	1.3 ↓ 2.1	18.8 ↓ 20.2	22.8 ↓ 22.6	-4.0 ↓ -2.4

※　数値は「当てはまる」と回答した割合（％）





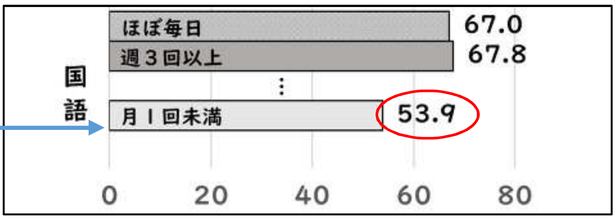


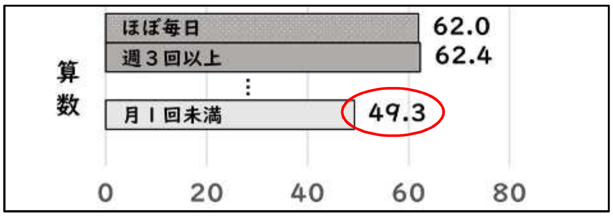


コラム　「ICT の活用」と目に見える学力の関係　～クロス集計結果から～

「これまでに受けた授業で，PC・タブレットなどの ICT 機器を，どの程度使用しましたか」の調査項目について肯定的に回答している児童生徒の方が，国語，算数・数学，英語における平均正答率が高い傾向がある。

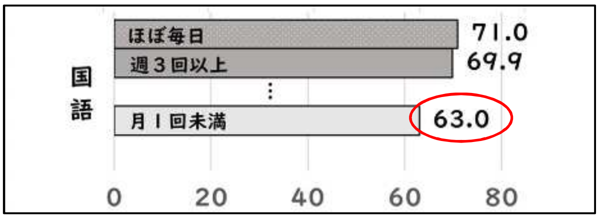
※　数値は鹿児島県の平均正答率である。

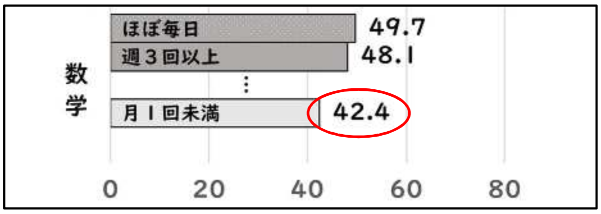


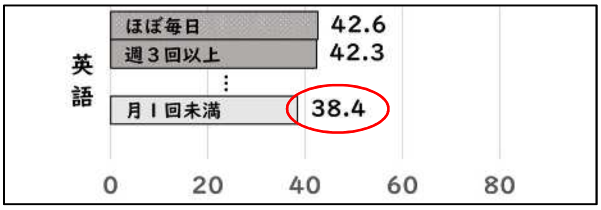


【小学校】

～表の見方～
　例えば，【小学校】国語において，「これまでに受けた授業で，PC・タブレットなどの ICT 機器を，どの程度使用しましたか」の調査項目について「月１回未満」と回答した児童の平均正答率が 53.9%であることを示している。







【中学校】

2 「授業がよく分かるか」について

分析結果のポイント

○ 「授業がよく分かる」と回答した児童の割合は，5教科中4教科において，全国との差が縮まった。特に小学校国語では昨年度と比べ 4.8 ポイント増加しており，全国との差が 3.9 ポイント縮まった。

○ 中学校においてはすべての教科において「授業がよく分かる」と回答した生徒の割合が減少した。小学校では4割前後であることに対して，中学校では3割前後となっていることも依然，課題である。

［表９］児童生徒質問紙から（全国と鹿児島県の昨年度・本年度の比較）

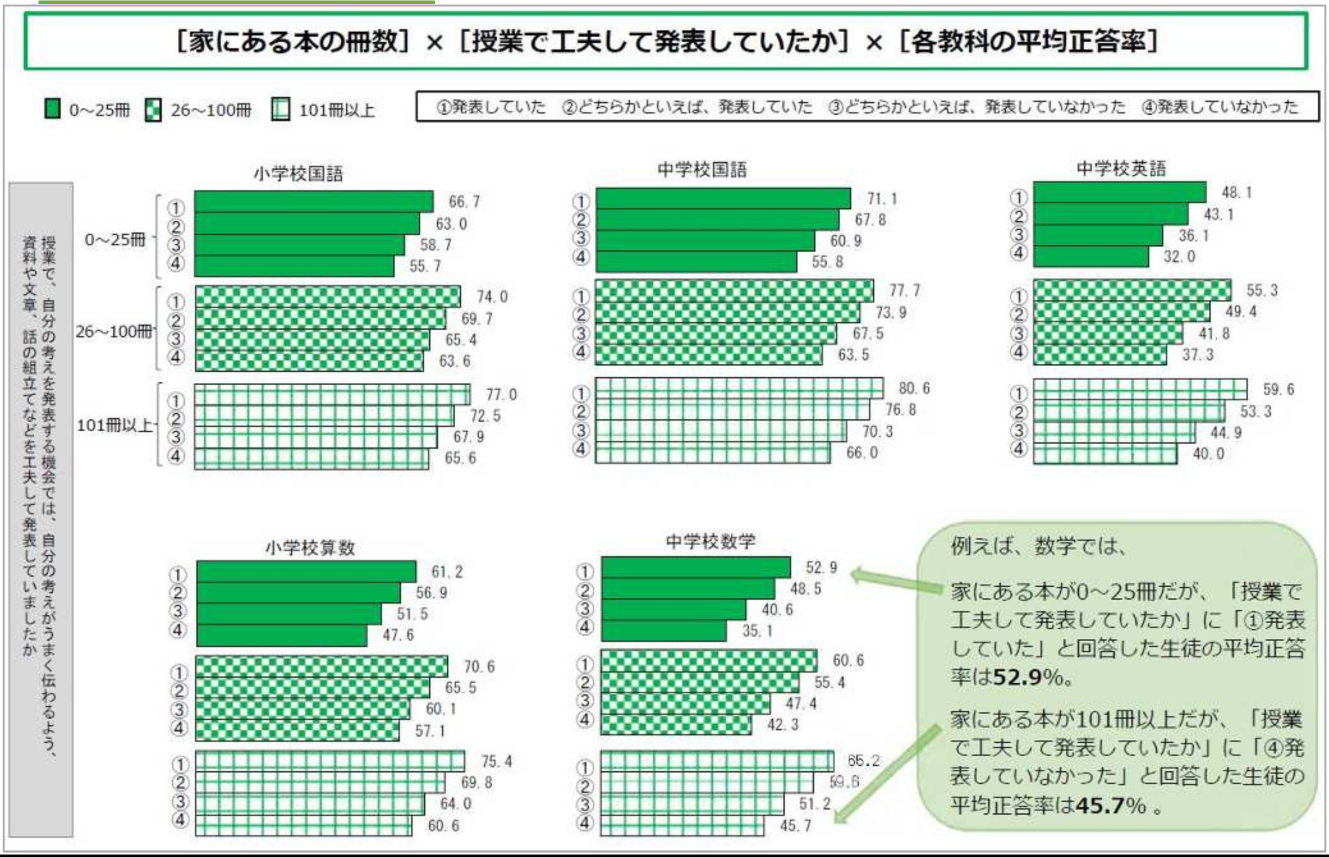
質問項目		小学校			中学校		
		県平均	全国平均	差	県平均	全国平均	差
【国語】 授業はよく分かりますか。	R4 ↓ R5	34.6 ↓ 39.4	39.5 ↓ 40.4	-4.9 ↓ -1.0	28.3 ↓ 26.7	31.9 ↓ 30.4	-3.6 ↓ -3.7
【算数・数学】 授業はよく分かりますか。	R4 ↓ R5	44.8 ↓ 44.8	45.6 ↓ 45.2	-0.8 ↓ -0.4	35.9 ↓ 33.8	36.1 ↓ 33.9	-0.2 ↓ -0.1
【英語】 授業はよく分かりますか。	H31 ↓ R5	―	―	―	25.9 ↓ 25.2	29.5 ↓ 28.0	-3.6 ↓ -2.8

コラム　**「社会経済的背景（SES：Socio-Economic Status）」「主体的・対話的で深い学び」「平均正答率」の関係 ～三重クロス集計結果から～**

○ 家庭の社会経済背景（SES：Socio-Economic Status）が低い生徒ほど，各教科の平均正答率が低い傾向が見られる。

○ しかし，「主体的・対話的で深い学び」に取り組んだ生徒は，SES が低い状況にあっても，各教科の平均正答率が高い傾向が見られる。

※　数値は全国の平均正答率である。



分析結果のポイント

○ 「主体的・対話的で深い学び」に関する項目である「自分で考え，自分から取り組んだ」，「自分の考えを深めたり，広げたりした」，「自分にあった教え方，教材，学習時間であった」に対して肯定的に回答する児童生徒は全国よりも下回っている状況。

分析結果のポイント

○ 「授業がよく分かる」と回答した生徒の割合は，小学校では4割前後，中学校では3割前後となっており，依然課題が継続。

考察② 「学習者主体の授業」への転換は図られているか

○ 「総括」でも述べたとおり，「主体的・対話的で深い学び」の視点からの授業改善が求められており，とりわけ変化の激しいこれからの時代では，必要となる「知識及び技能」がめまぐるしく変わることから，自己調整，挑戦心といった非認知能力を発揮しながら自ら学び続けることが重要となる。

○ そういった力を発揮できるようにするためには，「大人が教えない限り子供は学べない」といった子供観による一律・一斉・一方向の授業では限界があり，子供が自ら問題発見を行い，問いをもち，見通しを立てて問題解決を行い，その結果を振り返り，よりよい考えやものを創り上げ，さらに次の学びへとつなげていくような「学習者主体の授業」が求められる。

○ 今回の調査結果から分かるとおり，「課題の解決に向けて，自分で考え，自分から取り組んでいた」，「話し合う活動を通じて，自分の考えを深めたり，広げたりすることができた」，「自分にあった教え方，教材，学習時間になどになっていた」と回答した子供の割合は全国よりも低く，「授業がよく分かる」という割合も小学校では4割前後，中学校では3割前後となっており，依然課題となっている。

○ 調査結果から見られた課題が解決できるよう，子供たちには授業の中，あるいは授業以外の場面でも，「自ら考え，自ら取り組む活動」や「教材や学習時間なども含め，自分に合った学び方」を身に付けるような活動を取り入れることが大切である。

○ 具体的には，問題解決の場面においてICT機器や，ノート，ワークシート，具体物といった教材等を用いた解決方法や学習形態，学習時間等も自己選択・自己決定させるなどの「指導の個別化」を図ったり，単元を見通した学習計画表等により，学習内容や学習目標等を自己選択・自己決定する場を増やすなどの「学習の個性化」を図ったりするなどの工夫が考えられる。

○ 現に，「これまでに受けた授業で，PC・タブレットなどの ICT 機器を，どの程度使用しましたか」に対して肯定的に回答した子供や，「主体的・対話的で深い学び」に取り組んだ子供は，SES が低い状況にあっても，各教科の平均正答率が高い傾向が見られる。

○ このような結果は，例えば SES が低い家庭環境であっても学力の保障を成し得ることにつながるということを示したものであり，「主体的・対話的で深い学び」に向けた授業改善に努めることは，公教育の使命でもあると考える。

○ こういった分析結果を踏まえつつ，「学習者主体の授業」の実現を目指してほしい。

○ 現在，各市町村から「学習者主体の授業」の実践例を集めているところであり，県HPにアップするので参考にしてほしい（令和6年1月予定）。また，学びの羅針盤も「学習者主体の授業」の視点から全面改訂を行うため，そちらも参考にしてほしい（令和6年4月予定）。

ーメモー

4　指導法改善のポイント

国　語【小学校第6学年】

授業改善のポイント

○　単元などのまとまりを見通して，主体的に学習に取り組めるように，学習の見通しを立てたり，学習したことを振り返ったりして自分の学びや変容を自覚できるようにする。

正答の状況

年　度		令和5年度	令和4年度
平均正答数	県	9.4問／14問	9.3問／14問
	全国	9.4問／14問	9.2問／14問
平均正答率	県	67%	66%
	全国	67.2%	65.6%

今回の調査結果から明らかになった成果と課題

成果1　文章を読んで理解したことに基づいて，自分の考えをまとめること

成果2　目的や意図に応じ，話の内容を捉え，話し手の考えと比較しながら自分の考えをまとめること

課題1　情報と情報の関係付けの仕方，図などによる語句と語句との関係の表し方を理解し，使うこと

課題2　日常よく使われる敬語を理解し，使い慣れること

成果が見られた問題の概要

○成果1　設問番号　2 四

【学習指導要領における領域・内容】

〔第5学年及び第6学年〕　思考力，判断力，表現力等　　C　読むこと

オ　文章を読んで理解したことに基づいて，自分の考えをまとめること。

【設問の概要】

資料を読み，運動と食事の両方について分かったことをもとに，自分ができそうなことを書く。

【平均正答率（%）】	本県	全国	差	自校
2 四	59.1	56.2	+2.9	

○成果2　設問番号　3 二

【学習指導要領における領域・内容】

〔第5学年及び第6学年〕　思考力，判断力，表現力等　　A　話すこと・聞くこと

エ　話し手の目的や自分が聞こうとする意図に応じて，話の内容を捉え，話し手の考えと比較しながら，自分の考えをまとめること。

【設問の概要】

寺田さんと山本さんが，どのような思いでボランティアを続けているのかについて，分かったことをまとめて書く。

【平均正答率（%）】	本県	全国	差	自校
3 二	74.7	70.2	+ 4.5	

★　「自分の考えをまとめる（記述する）」学習の指導に当たって（今後も継続したいこと）

・〔知識及び技能〕の指導事項と関連させ，まとめるために必要な語句の指導を行う。

・記述の留意点を捉えることができるよう，必要に応じてモデルとなる文章を提示する。

・目的や観点を明確にした交流を取り入れ，まとめた文章を書き直したり，考えを広げたりすることができるようにする。

課題が見られた問題の概要，問題点とその改善点

課題が見られた問題の概要

▲課題１　設問番号　2 三

【学習指導要領における領域・内容】

〔第５学年及び第６学年〕　知識及び技能　（２）　情報の扱い方に関する事項

イ　情報と情報の関係付けの仕方，図などによる語句と語句との関係の表し方を理解し使うこと。

【設問の概要】

相田さんが【資料３】の情報をどのように整理しているかについて説明したものとして適切なものを選択する。

【平均正答率（%）】

	本県	全国	差	自校
2 三	59.6	62.0	-2.4	

問題点とその改善点

図示などにより語句と語句との関係を表すことを通して，考えをより明確なものにしたり，思考をまとめたりすることができることを理解し，そのよさを実感できるようにすることが重要である。〔思考力，判断力，表現力等〕の「精査・解釈」の指導事項との関連を図り，複数の語句を丸や四角で囲んだり，語句と語句を線でつないだりするなど，目的に応じて意図的に情報を整理する必要がある。

《情報整理の目的例》

・複数の事柄などを分解して捉える。　　・多様な内容や別々の要素などをまとめる。

・類似する点を基にして他のことを類推する。　　・一定のきまりを基に順序立てて系統化する。

【授業改善例】

＜全国学力・学習状況調査の報告書にある授業アイディア例P30からを参考にする。＞

○　単一の情報のみに基づいて情報を整理するのではなく，複数の情報を比較したり，関連付けたりして検討できるようにする。

○　もとになる情報を示しながら，考えとその理由を交流することで，それぞれの考えが既有の知識や体験などと結び付いていたり，他の情報と関係付けられていたりすることに気付くことができるようにする。

課題が見られた問題の概要

▲課題２　設問番号　3 三

【学習指導要領における領域・内容】

〔第５学年及び第６学年〕　知識及び技能　（１）　言葉の特徴や使い方に関する事項

キ　日常よく使われる敬語を理解し使い慣れること。

【設問の概要】

敬語の使い方をまとめた【谷さんのノートの一部】の空欄に入る内容として適切なものを選択する選択する。

【平均正答率（%）】

	本県	全国	差	自校
3 三	54.9	57.6	-2.7	

問題点とその改善点

相手と自分との関係を意識しながら，尊敬語や謙譲語について理解することが重要である。敬語を使用する場面を意図的に設定したり，敬語を使用した場面を動画や文字で視覚化しながら振り返らせたりする必要がある。

【授業改善例】

＜全国学力・学習状況調査の報告書にある授業アイディア例P63～64を参考にする。＞

○　日常生活の実際の場面や，相手・目的意識のある具体的な学習を通して，「言葉の特徴や使い方に関する事項」について理解できるように指導する。

○　振り返りの場面で敬語が使えていたかどうかを確かめるなど，言葉遣いについて確認する活動を学習の中に取り入れる。

国　語【中学校第3学年】

授業改善のポイント

○　指導事項を指導するために，教材を適切に取り上げ，効果的な言語活動を設定する。
○　それぞれの評価規準について，「努力を要する」状況の生徒への手立てを設定する。

正答の状況

年　度		令和5年度	令和4年度
平均正答数	県	10.5問／15問	9.7問／14問
	全国	10.5問／15問	9.7問／14問
平均正答率	県	70%	69%
	全国	69.8%	69%

今回の調査結果から明らかになった成果と課題

成果1　聞き取ったことを基に自分の考えをまとめること
成果2　歴史的仮名遣いの音読に必要な文語のきまりについて理解すること
課題1　読み手の立場に立ち，叙述の仕方などを確かめて文章を整えること
課題2　文章の中心的な部分と付加的な部分について，叙述に基に捉え，要旨を把握すること

成果が見られた問題の概要

○成果1　設問番号　1　四
【学習指導要領における領域・内容】
〔第1学年〕　思考力，判断力，表現力等　A　話すこと・聞くこと
エ　必要に応じて記録したり質問したりしながら話の内容を捉え，共通点や相違点などを踏まえて，自分の考えをまとめること。

【設問の概要】
インタビューのまとめとしてどのようなことを述べるのか，自分の考えを書く。

【平均正答率（%）】	本県	全国	差	自校
1　四	85.1	82.5	+2.6	

★　自分の考えをまとめる学習の指導に当たって（今後も継続したいこと）
・インタビューや話し合いの様子を録画し，音声を聞きながら友達と話し合う活動を取り入れる。（総合的な学習の時間など，他教科等の学習で実践した場面を教材として活用する。）
・聞き取ったことを基に自分の考えをまとめる際には，必要に応じて質問したりメモを取ったりしながら聞き，話の内容を正確に理解することが重要である。

○成果2　設問番号　4　一
【学習指導要領における領域・内容】
〔第1学年〕　知識及び技能　（3）我が国の言語文化に関する事項
ア　音読に必要な文語のきまりや訓読の仕方を知り，古文や漢文を音読し，古典特有のリズムを通して，古典の世界に親しむこと。（伝統的な言語文化）

【設問の概要】
歴史的仮名遣いを現代仮名遣いに直す（いひける）。

【平均正答率（%）】	本県	全国	差	自校
4　一	88.0	82.5	+5.5	

★　古典の学習指導に当たって（今後も継続したいこと）
・古典の世界に親しむために，原文を繰り返し音読しながら特有のリズムや現代の口語との違いに生徒自ら気付くことができるようにする。
・古典の世界に親しむために，分かりやすい現代語訳や古典について解説した文章などを教材として適切に取り上げるようにする。その際，古典の原文と複数の資料を比較したり関係付けたりして，作品の世界に興味・関心が向かうようにすることが重要である。

課題が見られた問題の概要，問題点とその改善点

課題が見られた問題の概要

▲課題１　設問番号　3　一

【学習指導要領における領域・内容】
〔第１学年〕　思考力，判断力，表現力等　B　書くこと
　エ　読み手の立場に立って，表記や語句の用法，叙述の仕方などを確かめて，文章を整えること。（推敲）

【設問の概要】
　レポートの下書きの一部について，文の一部を直す意図として適切なものを選択する。

【平均正答率（％）】

	本県	全国	差	自校
3 一	50.0	54.3	-4.3	

問題点とその改善点

　書いた文章を推敲する際には，伝えようとすることが伝わるように，読み手の立場に立って，表記や語句の用法，叙述の仕方などを確かめて，文章を整えることができるようにすることが重要である。〔知識及び技能〕の指導事項との関連を図り，「指示する語句と接続する語句の役割」や「原因と結果，意見と根拠など情報と情報の関係」など，学習した知識を観点として文章を読み返す必要がある。

【授業改善例】
<全国学力・学習状況調査の報告書にある授業アイディア例P57からを参考にする。>
○　「書くこと」の単元やさまざまな教育活動の書く活動において，推敲する過程を確実に位置付けるようにする。
○　推敲する前と後の文章を比較し，書き換えた理由や意図を説明する学習活動を取り入れるようにする。

課題が見られた問題の概要

▲課題２　設問番号　2　三

【学習指導要領における領域・内容】
〔第１学年〕　思考力，判断力，表現力等　C　読むこと
　ア　文章の中心的な部分と付加的な部分，事実と意見との関係などについて，叙述に基に捉え，要旨を把握すること。（構造と内容の把握）

【設問の概要】
　それぞれの文章で述べられている「読書の楽しみ」として適切なものを選択する。

【平均正答率（％）】

	本県	全国	差	自校
3 三	69.8	74.2	-4.4	

問題点とその改善点

　説明的な文章は，段落ごとに内容を捉えたり，段落相互の関係を押さえたりしながら，更に大きな意味のまとまりごとに，文章全体の役割を捉えることが重要である。そして，正確に要旨を捉えるために，文章の構造を踏まえて，キーワードやキーセンテンスなどに着目して情報を整理する必要がある。

【授業改善例】
<全国学力・学習状況調査の報告書にある授業アイディア例P42からを参考にする。>
○　要旨を捉えるために，指示する語句や接続する語句に印を付けたり，キーワードやキーセンテンスに傍線を引いたりしながら，どの叙述に着目したのかを自覚することができるようにする。
○　文章全体の構造を図や言葉（小見出し）で整理し，要旨をまとめる学習活動を取り入れる。

【読書活動について】
○　文章を読んで自分の考えを広げたり深めたりするためには，様々な立場や考えが書かれている複数の本や文章を読み，自分の考えが本などを読んだことによって，どのように広がったり深まったりしたのかを振り返ったり，読書にはどのような意義や効用があるのかを考える場を設定することで，自分の読書活動に自覚的になるようにすることが重要である。

算　数【小学校第６学年】

授業改善のポイント

○　児童自ら問いをもち，言葉，図，数，式，表，グラフなどを含む学習課題を読み取り，それらを関連付けながら問題解決を図ることができるような授業設計を行うことが重要である。

正答の状況

年　度		令和５年度	令和４年度
種　別		算数	算数
平均正答数	県	９.８問／１６問	１０.１問／１６問
	全国	１０.０問／１６問	１０.１問／１６問
平均正答率	県	６１％	６３％
	全国	６２．５％	６３．２％

今回の調査結果から明らかになった成果と課題

成果１　示された棒グラフと、複数の棒グラフを組み合せたグラフを読み、見いだしたことを言葉と数を用いて記述できるようにすること。

課題１　高さが等しい三角形について，底辺と面積の関係を基に面積の大小を判断し，その理由を言葉や数を用いて記述できるようにすること。

課題２　（２位数）÷（１位数）の筆算について，図を基に，各段階の商の意味を考えることができるようにすること。

成果が見られた問題の概要

成果１　設問番号４（３）　Ｄ　データの活用

【設問の概要】
二つのグラフから，３０分以上の運動をした日数が「１日」と答えた人数に着目して，分かることを書く。

【平均正答率(%)】

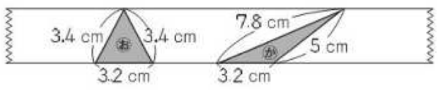
	本県	全国	差	自校
4(3)	60.5	56.2	4.3	

目的に応じて整理分類された複数のグラフを比べ，見いだしたことを言葉と数を用いて表現する問題であり，全国より高い正答率である。粘り強く自分の考えを書く指導等により成果を挙げているといえる。

課題が見られた問題の概要

課題１　設問番号２（４）　Ｂ　図形

(4)　えいたさんたちは、テープを直線で切って、下のような㋔と㋕の２つの三角形をつくります。



上の㋔と㋕の三角形の面積について、どのようなことがわかりますか。
下の **1** から **4** までの中から１つ選んで、その番号を書きましょう。
また、その番号を選んだわけを、言葉や数を使って書きましょう。

1　㋔の面積のほうが大きい。
2　㋕の面積のほうが大きい。
3　㋔と㋕の面積は等しい。
4　㋔と㋕の面積は、このままでは比べることができない。

【設問の概要】
テープを直線で切ってできた二つの三角形の面積の大小について分かることを選び，選んだわけを書く。

【平均正答率(%)】

	本県	全国	差	自校
2(4)	27.6	20.8	6.8	

自校の正答率と解答類型の割合を記入し，誤答の理由を探りましょう。

問題点とその改善点

○　本設問の正答率は，27.6％である。なお，二つの三角形の面積が等しいと判断できている解答類型１～4の反応率の合計は44.7％である。
○　誤って解答した児童は，高さについて具体的な長さが示されていないことから，面積はこのままでは比べることができないと判断していると考えられる。
○　指導に当たっては，例えば，平行な直線にはさまれた底辺が等しい二つの平行四辺形や，二つの三角形の面積を比べる活動を行うなどして，底辺と高さがそれぞれ等しければ，二つの図形の面積が等しくなるということを，面積の公式から判断できるようにすることが大切である。

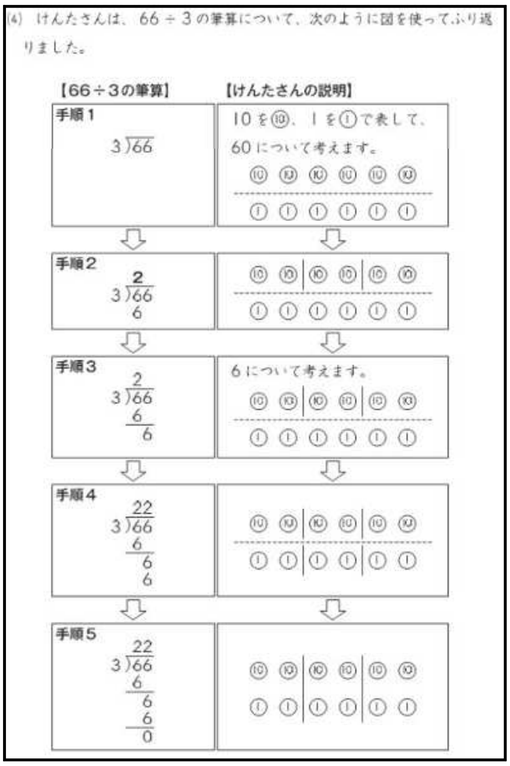
＜本県の誤答傾向＞

正答	解答類型	類型(%)	自校(%)
◎	3と回答し，①，②を全てを書いているもの	27.6	
	3と回答し，①を書いているもの	3.9	
	3と回答し，②を書いているもの	6.5	
	3と回答したが，無回答	6.7	
	1と回答	5.6	
	2と回答	18.1	
	4と回答	24.9	
	上記以外の解答	3.7	
	無解答	3.0	

課題が見られた問題の概要

課題２　設問番号 3 (4)　A　数と計算

【設問の概要】
66÷3の筆算の仕方を説明した図を基に，筆算の商の十の位に当たる式を選ぶ。



【けんたさんの説明】をもとにすると、66÷3の計算を、下のように考えることもできます。

66÷3＝(60＋6)÷3 （あ：60＋6）
　　＝60÷3＋6÷3 （い：60÷3，う：6÷3）
　　＝20＋2 （え：20＋2）
　　＝22

【66÷3の筆算】の手順２で十の位にたてた「２」は、上の式のあ、い、う、えのどの計算をした結果を表していますか。１つ選んで、その記号を書きましょう。

＜本県の誤答傾向＞

正答	解答類型	類型(%)	自校(%)
	ア と解答しているもの	12.4	
◎	イ と解答しているもの	44.1	
	ウ と解答しているもの	32.0	
	エ と解答しているもの	6.4	
	上記以外の解答	2.4	
	無解答	2.7	

【平均正答率(%)】

	本県	全国	差	自校
3(4)	44.1	47.6	-3.5	

自校の正答率と解答類型の割合を記入し，誤答の理由を探りましょう。

問題点とその改善点

○　本県の誤答傾向から，32.0％の児童がウと解答しており，商が2になる式である6÷3に着目することで，ウを選択しているのではないかと考えられる。
○　指導に当たっては，例えば，本設問を用いて，除法の筆算の手順を具体物や図に表したり，式に表したりすることで，それらを関連付ける活動を取り入れる工夫が考えられる。その際，除法の筆算が，被除数の66を60と6に分解して計算するという考え方に基づいていることを理解できるようにすることが大切である。

数　学【中学校第3学年】

授業改善のポイント

○　生徒自ら問いをもち，言葉や数，式，図，表，グラフなどを含む学習課題を読み取り，それらを関連付けながら問題解決を図ることができるような授業設計を行うことが重要である。

正答の状況

年　度		令和5年度	令和4年度
種　別		数学	数学
平均正答数	県	7.2問／15問	6.6問／14問
	全国	7.6問／15問	7.2問／14問
平均正答率	県	48%	47%
	全国	51.0%	51.4%

今回の調査結果から明らかになった課題

課題1　空間における平面が同一直線上にない3点で決定されることを理解すること
課題2　複数の集団のデータの分布の傾向を比較して捉え，判断の理由を数学的な表現を用いて説明すること
課題3　ある事柄が成り立つことを構想に基づいて証明すること

課題が見られた問題の概要

課題1　設問番号3

【設問の概要】
空間における平面が1つに決まる場合について，正しい記述を選ぶ。

3　空間における平面が1つに決まる場合について正しく述べたものを、下のアからエまでの中から1つ選びなさい。

ア　1点をふくむ平面は1つに決まる。
イ　2点をふくむ平面は1つに決まる。
ウ　1つの直線上にある3点をふくむ平面は1つに決まる。
エ　1つの直線上にない3点をふくむ平面は1つに決まる。

<本県の誤答傾向>

正答	解答類型	類型(%)	自校(%)
	ア と解答しているもの	7.1	
	イ と解答しているもの	29.0	
	ウ と解答しているもの	37.6	
◎	エ と解答しているもの	25.3	
	上記以外の解答	0.4	
	無解答	0.7	

【平均正答率(%)】

	本県	全国	差	自校
3	25.3	30.4	-5.1	

問題点とその改善点

○　本県の誤答傾向から，2点を含む平面は幾つもあることや，一つの直線上にある3点を含む平面は幾つもあることを捉えることができていない生徒がいると考えられる。
○　指導に当たっては，空間における平面が一つに決まるときの条件について，観察や操作などの活動を行ったり，身の回りにある事象から，空間において平面が一つに決まる条件を見いだしたりするなど，実感を伴いながら理解できるようにすることが重要である。

課題が見られた問題の概要

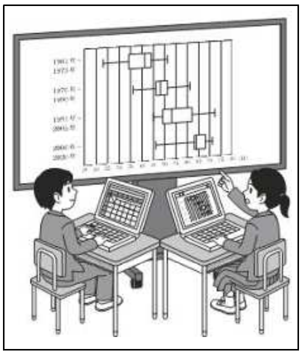
課題2　設問番号7(2)

【設問の概要】
「2006年～2020年の黄葉日は，1991年～2005年の黄葉日より遅くなっている傾向にある」と主張することができる理由を，箱ひげ図の箱に着目して説明する。

（2）二人は、前ページの箱ひげ図を見て、話し合っています。

一花さん「4つの箱ひげ図を見ると、黄葉日はだんだん遅くなっている傾向がありそうだね。」
啓太さん「でも、1991年～2005年と2006年～2020年の箱ひげ図は、右端と左端が同じくらいの位置にあるよ。遅くなっているといえるのかな。」
一花さん「確かに箱ひげ図の右端と左端についてはそうだけど、箱に着目すれば、2006年～2020年の黄葉日は、1991年～2005年の黄葉日より遅くなっている傾向にあるといえるのではないかな。」

前ページの箱ひげ図を見ると、一花さんのように「2006年～2020年の黄葉日は、1991年～2005年の黄葉日より遅くなっている傾向にある」と主張することができます。そのように主張することができる理由を、1991年～2005年と2006年～2020年の2つの箱ひげ図の箱に着目して説明しなさい。



問題点とその改善点

○　誤って解答した生徒は，箱ひげ図の位置に着目せず，データの散らばり具合に着目して黄葉日が遅いことを説明しようとしていたり，箱ひげ図の箱に着目せず，最小値に着目して黄葉日が遅いことを説明しようとしていたりしていると考えられる。
○　指導に当たっては，本設問を使って授業を行い，判断の根拠を箱の位置や四分位数などを用いて説明できるようにする工夫を取り入れることが大切である。また，複数の箱ひげ図を比較した際に箱の位置が右側にあるほど，黄葉日が遅くなっている傾向にあると捉えられるようにすることも大切である。

<本県の主な誤答傾向>

正答	解答類型	類型(%)	自校(%)
◎	(a)，(d)について記述しているもの	9.1	
○	(a)のみを記述しているもの	10.8	
◎	(b)，(d)について記述しているもの	3.6	
○	(b)のみを記述しているもの	3.1	
◎	(c)，(d)について記述しているもの	0.9	
○	(c)のみを記述しているもの	1.0	
	記述が不十分，なし	31.8	
	上記以外の解答	19.0	
	無解答	20.8	

【平均正答率(%)】

	本県	全国	差	自校
7(2)	28.4	33.6	-5.2	

課題が見られた問題の概要

課題3　設問番号9(1)

9　次の図1のように，CA＝CBの二等辺三角形ABCと，△ABC≡△DEFとなるような△DEFの2つの三角形を厚紙で作ります。

図1

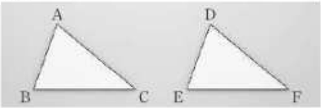
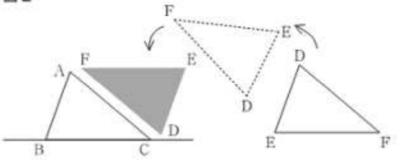


図1の2つの三角形の厚紙を使って，次の方法1と方法2でそれぞれ2つの直線をひきます。

方法1

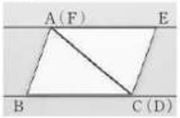
① △ABCを置いて，直線BCをひく。そして，図2のように，△DEFを回して，点Fを点Aに，点Dを点Cに重ねる。

図2



② 図3のように，点Aと点Fが重なった点をAとして，直線AEをひく。また，点Cと点Dが重なった点をCとする。

図3

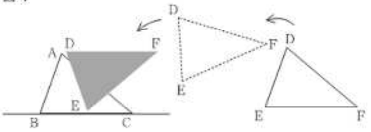


【設問の概要】
2つの直線BCと直線AEが平行であることを，三角形の合同を基にして，同位角又は錯角が等しいことを示すことで証明する。

方法2

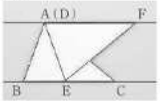
① △ABCを置いて，直線BCをひく。そして，図4のように，△DEFを回して，点Dを点Aに，点Eを直線BC上に置く。ただし，点Eは点Bと重ならないように置く。

図4



② 図5のように，点Aと点Dが重なった点をAとして，直線AFをひく。

図5



優奈さんは，方法1の直線BCと直線AE，方法2の直線BCと直線AFがそれぞれ平行になるのではないかと考え，調べることにしました。

次の(1)，(2)の各問いに答えなさい。

(1) 優奈さんは，前ページの方法1の直線BCと直線AEが平行になるかどうかを調べるために，右の図6をかきました。図6の△ABCと△CEAは，それぞれCA＝CB，AC＝AEで，△ABC≡△CEAです。

図6

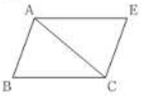


図6において，BC//AEであることは，すでにわかっている△ABC≡△CEAをもとにして，同位角または錯角が等しいことを示すことで証明できます。BC//AEであることを証明しなさい。

<本県の誤答傾向>

正答	解答類型	類型(%)	自校(%)
◎	(a)，(b) とそれぞれの根拠について記述しているもの	13.2	
○	(a)，(b) とそれぞれについて記述しているが表現が十分でないもの	9.6	
◎	上記以外でBC//AEになる理由を正しく証明しているもの	1.1	
○	BC//AEの証明で表現が十分でないもの	1.2	
	(b) のみを記述しているもの	23.3	
	上記以外の解答	26.3	
	無解答	25.2	

【平均正答率(%)】

	本県	全国	差	自校
9(1)	25.2	32.1	-6.9	

問題点とその改善点

○　本県の誤答傾向から，23.3%の生徒は，結論であるBC//AEであることを証明するために，錯角である∠BCA＝∠EACを示すことができていないと考えられる。
○　指導に当たっては，事柄が成り立つことを証明することができるようにするために，構想を立て，それに基づいて仮定から結論を導く推論の過程を数学的に表現できるように指導することが大切である。本設問を使って授業を行い，2直線が平行であることの根拠となる事柄を捉え，その事柄を与えられた条件から導く過程を考えるといった構想を立てるといった活動を取り入れることが考えられる。

英　語【中学校第3学年】

正答の状況

年度		令和5年度	平成31年度
種別		英語	英語
平均正答数	県	7.2問／17問	11.2問／21問
	全国	7.7問／17問	11.8問／21問
平均正答率	県	42%	53%
	全国	45.6%	56.0%

今回の調査結果から明らかになった課題

課題1　日常会話で使用する基本的な表現について，簡単な語句や文を用いて正確に書くことができているか。

課題2　社会的な話題に関して読んだことについて，考えとその理由を書くことができているか。

課題が見られた問題の概要，問題点とその改善点

課題が見られた問題の概要

課題1　設問番号 9 (1)②

【設問の概要】
疑問詞を用いた一般動詞の2人称単数過去形の疑問文を正確に書くことができるかどうかをみる。

9

(1) 次の①、②について、例を参考にしながら、必要があれば（　）内の語を適切な形に変えたり、不足している語を補ったりして、それぞれ会話が成り立つように英文を完成させなさい。

(例)　<友達同士の会話>

A：I called you at eight last night.

B：Oh, sorry. I (　　do　　) my homework then.

〔答え〕was doing

②　<友達同士の会話>

A：Oh, you have a new watch!

B：Yes, I got it yesterday.

A：(　　buy　　) the watch?

B：At a department store near the station.

<正答>　Where did you buy

<本県の誤答傾向>

正答	解答類型	本県(%)	自校(%)
◎	1　正確に書いているもの。	14.6	
○	2　大文字の誤りがあるもの。	0.3	
	3　2人称単数過去形の疑問文を書いているが誤りがあるもの。	1.1	
	4　2人称単数過去形以外の疑問文を書いているもの。	34.7	
	5　上記までとは違う疑問文を書いているもの。	12.9	
	6　疑問文を書いていないもの。	24.9	
	7　上記以外の解答	1.7	
	8　無回答	9.8	

【平均正答率(%)】

	本県	全国	差	自校
9 (1)②	14.9	20.9	-6.0	

自校の正答率と解答類型の割合を記入し，誤答の理由を探りましょう。

問題点とその改善点

○ 解答類型6の誤答が24.9%であることから，対話の流れを掴めていない，疑問詞を用いた疑問文に対する基本的な理解が不足していることが考えられる。音声での即効的なやり取りの中で，徐々にエラーを減らすことを意識させ，言語の機能等を理解させるような活動の充実が必要である。

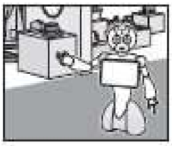
○ 解答類型4の誤答が34.7%であることから，対話の流れを掴んでいても，時制や疑問詞を用いた疑問文の正確な記述に課題があることが考えられる。やり取りした表現を正確に書かせる指導を通して，エラーに気付く視点をもたせる指導を充実させる必要がある。

課題が見られた問題の概要

課題2　設問番号 8 (2)

【設問の概要】
社会的な話題に関して読んだことについて，考えとその理由を書くことができるかどうかをみる。

8 英語の授業で，ブラウン先生が作成した文章が学習者用端末に送信されました。これを読んで，以下の問いに答えなさい。



Today we see many kinds of robots around us. They are helpful. When I went shopping, I saw a robot and it was working as a guide. I could talk to the robot in English or other languages. At some restaurants, robots bring our meals. They can carry many plates at one time. Thanks to them, the restaurant doesn't need a lot of staff members. We have robot pets, too. We can have them even if we are busy with work or we live in small apartments. People will have fun if they live with robot pets. As I explained, robots can change many people's lives for the better. Do you agree with me? Why or why not?

(2) ブラウン先生の質問に対するあなたの考えと理由を英語で簡潔に書きなさい。

<正答例> I don't agree with you because people will lose their job.

<本県の誤答傾向>

正答	解答類型	本県(%)	自校(%)
◎	1 正確に書いているもの。	2.1	
○	2 おおむね正確な英語で書いているもの。	12.6	
	3 自分の考えや理由を書いているが，誤りがあるもの。	7.9	
	4 理由がないもの。	31.1	
	5 脈絡のない自分の考えのみを書いているもの。	8.9	
	6 自分の考えや理由を書いていないもの。	8.4	
	7 上記以外の解答	2.3	
	8 無回答	26.7	

【平均正答率(%)】

	本県	全国	差	自校
8(2)	14.7	19.5	-4.8	

自校の正答率と解答類型の割合を記入し，誤答の理由を探りましょう。

問題点とその改善点

○ 無回答が26.7%であることから，文章の内容を読み取ること，質問の意味を理解すること，主体的に考えて発想すること，発想したことを英語で書くことのいずれかの段階でつまずいている生徒が4分の1いる現状がうかがえる。言語活動の充実を図る上で，簡単な言語材料を扱いつつ，統合された一連の技能や思考の流れがスムーズに展開される活動の充実が必要である。

○ 解答類型4の誤答が31.1%と最も多くなったことから，理由を添えて自分の考えを述べることに課題が見られる。言語活動が単なる意見の交換に終始してしまわないよう，的確な理由を添えて意見を述べ合うような活動の充実が求められる。

－メモ－

（参考資料）令和5年度全国学力・学習状況調査 児童生徒質問紙 結果概要

本県，全国の数値は，自信をもって（「1．している」「1．当てはまる」など）回答している児童の割合（％）を示してある。

【小学校】

1 全国に比べてよい傾向が見られた質問

順位	質問番号	質問事項	県平均	全国平均	全国との差
1	（7）	将来の夢や目標を持っていますか	66.0	60.8	5.2
2	（25）	今住んでいる地域の行事に参加していますか	29.4	24.3	5.1
3	（29）	5年生までに受けた授業で、PC・タブレットなどのICT機器を、どの程度使用しましたか【ほぼ毎日】	32.9	28.2	4.7
4	（12）	学校に行くのは楽しいと思いますか	53.1	49.8	3.3
5	（24）	読書は好きですか	42.0	39.4	2.6

2 全国に比べてよい傾向が見られない質問

順位	質問番号	質問事項	県平均	全国平均	全国との差
1	（4）	自分には、よいところがあると思いますか	35.5	42.6	-7.1
2	（5）	先生は、あなたのよいところを認めてくれていると思いますか	45.2	49.9	-4.7
3	（17）	学校の授業時間以外に，普段（月曜日から金曜日），1日当たりどれくらいの時間，勉強をしますか（学習塾で勉強している時間や家庭教師の先生に教わっている時間，インターネットを活用して学ぶ時間も含む）【3時間以上】	7.3	11.8	-4.5
4	（40）	あなたの学級では、学級生活をよりよくするために学級会で話し合い、互いの意見のよさを生かして解決方法を決めていますか	27.5	31.8	-4.3
5	（32）	5年生までに受けた授業で、自分の考えを発表する機会では、自分の考えがうまく伝わるよう、資料や文章、話の組立てなどを工夫して発表していましたか	20.6	24.8	-4.2

【中学校】

1 全国に比べてよい傾向が見られた質問

順位	質問番号	質問事項	県平均	全国平均	全国との差
1	（58）	数学の授業で学習したことは、将来、社会に出たときに役に立つと思いますか	42.7	38.8	3.9
2	（1）	朝食を毎日食べていますか	82.3	78.6	3.7
3	（24）	読書は好きですか	38.9	35.2	3.7
3	（3）	毎日、同じくらいの時刻に起きていますか	58.3	54.8	3.5
5	（56）	数学の勉強は大切だと思いますか	53.1	49.8	3.3

2 全国に比べてよい傾向が見られない質問

順位	質問番号	質問事項	県平均	全国平均	全国との差
1	（33）	1、2年生のときに受けた授業で、PC・タブレットなどのICT機器を、どの程度使用しましたか【ほぼ毎日】	20.7	28.1	-7.4
2	（4）	自分には、よいところがあると思いますか	30.9	37.2	-6.3
2	（5）	先生は、あなたのよいところを認めてくれていると思いますか	33.7	40.0	-6.3
4	（36）	1、2年生のときに受けた授業で、自分の考えを発表する機会では、自分の考えがうまく伝わるよう、資料や文章、話の組立てなどを工夫して発表していましたか	15.9	21.9	-6.0
5	（44）	あなたの学級では、学級生活をよりよくするために学級活動で話し合い、互いの意見のよさを生かして解決方法を決めていますか	23.7	29.3	-5.6

（参考資料）（１）児童生徒質問紙【小学校】の結果概要

本県，全国の数値は，自信をもって（「１．している」「１．当てはまる」など）回答している児童の割合（％）を示してある。

「児童生徒質問紙」概要【小学校】（全国との差＋３以上，－３以下に網掛け）

番号	質問番号	質問事項	県平均	全国平均	全国との差	自校
1	(1)	朝食を毎日食べていますか	83.9	83.7	0.2	
2	(2)	毎日、同じくらいの時刻に寝ていますか	37.0	38.1	-1.1	
3	(3)	毎日、同じくらいの時刻に起きていますか	54.6	55.1	-0.5	
4	(4)	自分には、よいところがあると思いますか	35.5	42.6	-7.1	
5	(5)	先生は、あなたのよいところを認めてくれていると思いますか	45.2	49.9	-4.7	
6	(6)	先生は、授業やテストで間違えたところや、理解していないところについて、分かるまで教えてくれていると思いますか	62.5	60.9	1.6	
7	(7)	将来の夢や目標を持っていますか	66.0	60.8	5.2	
8	(8)	人が困っているときは、進んで助けていますか	44.1	45.6	-1.5	
9	(9)	いじめは、どんな理由があってもいけないことだと思いますか	83.1	82.6	0.5	
10	(10)	困りごとや不安がある時に、先生や学校にいる大人にいつでも相談できますか	29.7	33.4	-3.7	
11	(11)	人の役に立つ人間になりたいと思いますか	75.5	75.3	0.2	
12	(12)	学校に行くのは楽しいと思いますか	53.1	49.8	3.3	
13	(13)	自分と違う意見について考えるのは楽しいと思いますか	31.7	32.0	-0.3	
14	(14)	友達関係に満足していますか	63.2	63.2	0	
15	(15)	普段の生活の中で、幸せな気持ちになることはどれくらいありますか	49.2	49.9	-0.7	
16	(16)	家で自分で計画を立てて勉強をしていますか（学校の授業の予習や復習を含む）	25.7	28.7	-3	
17	(17)	学校の授業時間以外に、普段（月曜日から金曜日）、１日当たりどれくらいの時間、勉強をしますか（学習塾で勉強している時間や家庭教師の先生に教わっている時間、インターネットを活用して学ぶ時間も含む）	7.3	11.8	-4.5	
18	(18)	土曜日や日曜日など学校が休みの日に、１日当たりどれくらいの時間、勉強をしますか（学習塾で勉強している時間や家庭教師の先生に教わっている時間、インターネットを活用して学ぶ時間も含む）	4.0	7.9	-3.9	
19	(19)	学習塾の先生や家庭教師の先生に教わっていますか（インターネットを通じて教わっている場合も含む）	68.6	54.4	14.2	
20	(20)	学校の授業時間以外に、普段（月曜日から金曜日）、１日当たりどれくらいの時間、読書をしますか（電子書籍の読書も含む。教科書や参考書、漫画や雑誌は除く）	7.5	7.6	-0.1	
21	(21)	昼休みや放課後、学校が休みの日に、本（教科書や参考書、漫画や雑誌は除く）を読んだり、借りたりするために、学校図書館・学校図書室や地域の図書館（それぞれ電子図書館を含む）にどれくらい行きますか	4.4	2.5	1.9	
22	(22)	あなたの家には、およそどれくらいの本がありますか（雑誌、新聞、教科書は除く）	16.5	12.9	3.6	
23	(23)	新聞を読んでいますか	3.0	4.3	-1.3	
24	(24)	読書は好きですか	42.0	39.4	2.6	
25	(25)	今住んでいる地域の行事に参加していますか	29.4	24.3	5.1	
26	(26)	地域や社会をよくするために何かしてみたいと思いますか	32.7	33.2	-0.5	
27	(27)	外国の人と友達になったり、外国のことについてもっと知ったりしてみたいと思いますか	41.6	40.8	0.8	
28	(28)	日本やあなたが住んでいる地域のことについて、外国の人にもっと知ってもらいたいと思いますか	48.0	45.7	2.3	
29	(29)	５年生までに受けた授業で、PC・タブレットなどのICT機器を、どの程度使用しましたか	32.9	28.2	4.7	
30	(30)	学習の中でPC・タブレットなどのICT機器を使うのは勉強の役に立つと思いますか	67.4	67.5	-0.1	
31	(31)	学校の授業時間以外に、普段（月曜日から金曜日）、１日当たりどれくらいの時間、PC・タブレットなどのICT機器を、勉強のために使っていますか（遊びなどの目的に使う時間は除く）	2.9	2.9	0	
32	(32)	５年生までに受けた授業で、自分の考えを発表する機会では、自分の考えがうまく伝わるよう、資料や文章、話の組立てなどを工夫して発表していましたか	20.6	24.8	-4.2	
33	(33)	５年生までに受けた授業では、課題の解決に向けて、自分で考え、自分から取り組んでいましたか	28.1	30.5	-2.4	

番号	質問番号	質問事項	県平均	全国平均	全国との差	自校
34	（34）	5年生までに受けた授業では、各教科などで学んだことを生かしながら、自分の考えをまとめる活動を行っていましたか	26.3	28.3	-2	
35	（35）	5年生までに受けた授業は、自分にあった教え方、教材、学習時間などになっていましたか	39.4	37.3	2.1	
36	（36）	学級の友達との間で話し合う活動を通じて、自分の考えを深めたり、広げたりすることができていますか	36.4	38.6	-2.2	
37	（37）	学習した内容について、分かった点や、よく分からなかった点を見直し、次の学習につなげることができていますか	31.4	31.0	0.4	
38	（38）	授業で学んだことを、ほかの学習で生かしていますか	37.9	39.0	-1.1	
39	（39）	総合的な学習の時間では、自分で課題を立てて情報を集め整理して、調べたことを発表するなどの学習活動に取り組んでいますか	33.2	31.8	1.4	
40	（40）	あなたの学級では、学級生活をよりよくするために学級会で話し合い、互いの意見のよさを生かして解決方法を決めていますか	27.5	31.8	-4.3	
41	（41）	学級活動における学級での話合いを生かして、今、自分が努力すべきことを決めて取り組んでいますか	28.8	30.6	-1.8	
42	（42）	道徳の授業では、自分の考えを深めたり、学級やグループで話し合ったりする活動に取り組んでいますか	43.7	44.3	-0.6	
43	（43）	国語の勉強は好きですか	24.5	23.8	0.7	
44	（44）	国語の勉強は大切だと思いますか	70.3	69.1	1.2	
45	（45）	国語の授業の内容はよく分かりますか	39.4	40.4	-1	
46	（46）	国語の授業で学習したことは、将来、社会に出たときに役に立つと思いますか	64.9	64.4	0.5	
47	（47）	国語の授業で、言葉には、相手との好ましい関係をつくる働きがあることについて学んでいますか	40.0	40.9	-0.9	
48	（48）	国語の授業で、立場や考えの違いを意識して話し合い、自分とは違う意見を生かして自分の考えをまとめていますか	30.7	31.8	-1.1	
49	（49）	国語の授業で、書いた文章の感想や意見を学級の友達と伝え合い、自分の文章のよいところを見付けていますか	29.4	28.9	0.5	
50	（50）	国語の授業で、物語を読むときに、登場人物の性格や特徴、物語全体を具体的にイメージし、どのような表現で描かれているのかに着目していますか	41.6	43.6	-2	
51	（51）	算数の勉強は好きですか	35.8	34.8	1	
52	（52）	算数の勉強は大切だと思いますか	75.9	75.3	0.6	
53	（53）	算数の授業の内容はよく分かりますか	44.8	45.2	-0.4	
54	（54）	算数の授業で学習したことは、将来、社会に出たときに役に立つと思いますか	74.1	73.0	1.1	
55	（55）	英語の勉強は好きですか	38.2	38.6	-0.4	
56	（56）	英語の勉強は大切だと思いますか	67.1	69.8	-2.7	
57	（57）	将来、積極的に英語を使うような生活をしたり職業に就いたりしたいと思いますか	29.2	28.9	0.3	
58	（58）	これまで、学校の授業以外で、英語を使う機会がありましたか（地域の人や外国にいる人と英語で話す、英語で手紙や電子メールを書く、英語のテレビやホームページを見る、PC・タブレットなどのICT機器を利用して他者と英語で交流する、英会話教室に通うなど）	22.6	28.3	-5.7	
59	（59）	家庭学習の課題（宿題）として、どの程度PC・タブレットなどのICT機器を使用して、英語の音声を聞いたり英語を話す練習をしたりしていますか	4.8	6.2	-1.4	
60	（国1）	今回の国語の問題では、解答を文章で書く問題がありました。それらの問題について、どのように解答しましたか	84.9	80.7	4.2	
61	（国2）	解答時間は十分でしたか（国語）	33.6	29.3	4.3	
62	（算1）	今回の算数の問題では、言葉や数、式を使って、わけや求め方などを書く問題がありました。それらの問題について、どのように解答しましたか	83.4	80.3	3.1	
63	（算2）	解答時間は十分でしたか（算数）	59.6	61.7	-2.1	

（参考資料）(2)児童生徒質問紙【中学校】の結果概要

本県，全国の数値は，自信をもって（「１．している」「１．当てはまる」など）回答している児童の割合（％）を示してある。

「児童生徒質問紙」概要【中学校】（全国との差＋3以上，－3以下に網掛け）

番号	質問番号	質問事項	県平均	全国平均	全国との差	自校
1	(1)	朝食を毎日食べていますか	82.3	78.6	3.7	
2	(2)	毎日、同じくらいの時刻に寝ていますか	36.4	34.7	1.7	
3	(3)	毎日、同じくらいの時刻に起きていますか	58.3	54.8	3.5	
4	(4)	自分には、よいところがあると思いますか	30.9	37.2	-6.3	
5	(5)	先生は、あなたのよいところを認めてくれていると思いますか	33.7	40.0	-6.3	
6	(6)	先生は、授業やテストで間違えたところや、理解していないところについて、分かるまで教えてくれていると思いますか	39.7	43.7	-4.0	
7	(7)	将来の夢や目標を持っていますか	42.2	39.4	2.8	
8	(8)	人が困っているときは、進んで助けていますか	38.4	38.4	0.0	
9	(9)	いじめは、どんな理由があってもいけないことだと思いますか	82.4	80.3	2.1	
10	(10)	困りごとや不安がある時に、先生や学校にいる大人にいつでも相談できますか	26.4	31.2	-4.8	
11	(11)	人の役に立つ人間になりたいと思いますか	72.0	71.7	0.3	
12	(12)	学校に行くのは楽しいと思いますか	45.4	43.3	2.1	
13	(13)	自分と違う意見について考えるのは楽しいと思いますか	30.8	32.2	-1.4	
14	(14)	友達関係に満足していますか	56.8	55.3	1.5	
15	(15)	普段の生活の中で、幸せな気持ちになることはどれくらいありますか	39.2	40.9	-1.7	
16	(16)	家で自分で計画を立てて勉強をしていますか（学校の授業の予習や復習を含む）	15.3	15.3	0.0	
17	(17)	学校の授業時間以外に、普段（月曜日から金曜日）、１日当たりどれくらいの時間、勉強をしますか（学習塾で勉強している時間や家庭教師の先生に教わっている時間、インターネットを活用して学ぶ時間も含む）	6.5	10.3	-3.8	
18	(18)	土曜日や日曜日など学校が休みの日に、１日当たりどれくらいの時間、勉強をしますか（学習塾で勉強している時間や家庭教師の先生に教わっている時間、インターネットを活用して学ぶ時間も含む）	4.8	6.8	-2.0	
19	(19)	学習塾の先生や家庭教師の先生に教わっていますか（インターネットを通じて教わっている場合も含む）	56.6	39.3	17.3	
20	(20)	学校の授業時間以外に、普段（月曜日から金曜日）、１日当たりどれくらいの時間、読書をしますか（電子書籍の読書も含む。教科書や参考書、漫画や雑誌は除く）	5.4	5.4	0.0	
21	(21)	昼休みや放課後、学校が休みの日に、本（教科書や参考書、漫画や雑誌は除く）を読んだり、借りたりするために、学校図書館・学校図書室や地域の図書館（それぞれ電子図書館を含む）にどれくらい行きますか	2.8	1.6	1.2	
22	(22)	あなたの家には、およそどれくらいの本がありますか（一般の雑誌、新聞、教科書は除く）	19.5	15.2	4.3	
23	(23)	新聞を読んでいますか	1.9	2.5	-0.6	
24	(24)	読書は好きですか	38.9	35.2	3.7	
25	(25)	学校の部活動に参加していますか	57.6	61.4	-3.8	
26	(26)	普段（月曜日から金曜日）、平均して何日学校の部活動に参加していますか	24.6	23.7	0.9	
27	(27)	学校の部活動で、普段（月曜日から金曜日）活動を行った日は、平均してどれくらいの時間、活動をしますか	4.7	6.5	-1.8	
28	(28)	学校の部活動で、土曜日や日曜日など学校が休みの日に活動を行った日は、平均してどれくらいの時間、活動をしますか	11.5	12.4	-0.9	
29	(29)	今住んでいる地域の行事に参加していますか	14.0	12.2	1.8	
30	(30)	地域や社会をよくするために何かしてみたいと思いますか	19.3	19.6	-0.3	
31	(31)	外国の人と友達になったり、外国のことについてもっと知ったりしてみたいと思いますか	33.4	34.9	-1.5	
32	(32)	日本やあなたが住んでいる地域のことについて、外国の人にもっと知ってもらいたいと思いますか	26.5	26.2	0.3	
33	(33)	１、２年生のときに受けた授業で、PC・タブレットなどのICT機器を、どの程度使用しましたか	20.7	28.1	-7.4	
34	(34)	学習の中でPC・タブレットなどのICT機器を使うのは勉強の役に立つと思いますか	56.2	58.7	-2.5	
35	(35)	学校の授業時間以外に、普段（月曜日から金曜日）、１日当たりどれくらいの時間、PC・タブレットなどのICT機器を、勉強のために使っていますか（遊びなどの目的に使う時間は除く）	1.2	2.1	-0.9	
36	(36)	１、２年生のときに受けた授業で、自分の考えを発表する機会では、自分の考えがうまく伝わるよう、資料や文章、話の組立てなどを工夫して発表していましたか	15.9	21.9	-6.0	
37	(37)	１、２年生のときに受けた授業では、課題の解決に向けて、自分で考え、自分から取り組んでいましたか	28.0	30.4	-2.4	
38	(38)	１、２年生のときに受けた授業では、各教科などで学んだことを生かしながら、自分の考えをまとめる活動を行っていましたか	18.9	22.7	-3.8	

番号	質問番号	質問事項	県平均	全国平均	全国との差	自校
39	(39)	1、2年生のときに受けた授業は、自分にあった教え方、教材、学習時間などになっていましたか	20.2	22.6	-2.4	
40	(40)	学級の生徒との間で話し合う活動を通じて、自分の考えを深めたり、広げたりすることができていますか	33.2	34.3	-1.1	
41	(41)	学習した内容について、分かった点や、よく分からなかった点を見直し、次の学習につなげることができていますか	22.5	23.1	-0.6	
42	(42)	授業で学んだことを、ほかの学習で生かしていますか	21.1	24.0	-2.9	
43	(43)	総合的な学習の時間では、自分で課題を立てて情報を集め整理して、調べたことを発表するなどの学習活動に取り組んでいますか	27.5	28.9	-1.4	
44	(44)	あなたの学級では、学級生活をよりよくするために学級活動で話し合い、互いの意見のよさを生かして解決方法を決めていますか	23.7	29.3	-5.6	
45	(45)	学級活動における学級での話合いを生かして、今、自分が努力すべきことを決めて取り組んでいますか	23.0	24.9	-1.9	
46	(46)	道徳の授業では、自分の考えを深めたり、学級やグループで話し合ったりする活動に取り組んでいますか	46.6	43.8	2.8	
47	(47)	国語の勉強は好きですか	20.6	23.6	-3.0	
48	(48)	国語の勉強は大切だと思いますか	60.8	60.0	0.8	
49	(49)	国語の授業の内容はよく分かりますか	26.7	30.4	-3.7	
50	(50)	国語の授業で学習したことは、将来、社会に出たときに役に立つと思いますか	53.8	52.3	1.5	
51	(51)	行書の基礎的な書き方(「点画の連続」や「点画の省略」、「筆順の変化」など)を理解して書いていますか	23.6	25.4	-1.8	
52	(52)	国語の授業で、自分の考えを分かりやすく伝えるために、聞き手の立場に立って効果的な話し方を工夫していますか	17.3	19.3	-2.0	
53	(53)	国語の授業で、自分の考えが伝わる文章になるように、根拠を明確にするために必要な情報を資料から引用して書いていますか	17.4	19.4	-2.0	
54	(54)	国語の授業で、文学的な文章を読み、場面の展開や登場人物の心情の変化などについて、描写を基にとらえていますか	27.1	29.8	-2.7	
55	(55)	数学の勉強は好きですか	29.9	29.1	0.8	
56	(56)	数学の勉強は大切だと思いますか	53.1	49.8	3.3	
57	(57)	数学の授業の内容はよく分かりますか	33.8	33.9	-0.1	
58	(58)	数学の授業で学習したことは、将来、社会に出たときに役に立つと思いますか	42.7	38.8	3.9	
59	(59)	英語の勉強は好きですか	24.5	25.2	-0.7	
60	(60)	英語の勉強は大切だと思いますか	60.2	61.6	-1.4	
61	(61)	英語の授業の内容はよく分かりますか	25.2	28.0	-2.8	
62	(62)	英語の授業で学習したことは、将来、社会に出たときに役に立つと思いますか	60.1	62.4	-2.3	
63	(63)	将来、積極的に英語を使うような生活をしたり職業に就いたりしたいと思いますか	13.8	15.7	-1.9	
64	(64)	これまで、学校の授業やそのための学習以外で、日常的に英語を使う機会が十分にありましたか(地域の人や外国にいる人と英語で話す、英語で手紙や電子メールを書く、英語のテレビやホームページを見る、オンラインで他者と英語で交流する、英会話教室に通うなど)	9.2	12.7	-3.5	
65	(65)	家庭学習の課題(宿題)として、どの程度PC・タブレットなどのICT機器を使用して、英語の音声を聞いたり英語を話す練習をしたりしていますか	2.6	3.4	-0.8	
66	(66)	1、2年生のときに受けた授業では、英語を聞いて(一文一文ではなく全体の)概要や要点をとらえる活動が行われていたと思いますか	31.9	32.7	-0.8	
67	(67)	1、2年生のときに受けた授業では、英語を読んで(一文一文ではなく全体の)概要や要点をとらえる活動が行われていたと思いますか	33.6	34.9	-1.3	
68	(68)	1、2年生のときに受けた授業では、原稿などの準備をすることなく、(即興で)自分の考えや気持ちなどを英語で伝え合う活動が行われていたと思いますか	20.8	26.2	-5.4	
69	(69)	1、2年生のときに受けた授業では、スピーチやプレゼンテーションなど、まとまった内容を英語で発表する活動が行われていたと思いますか	33.2	42.9	-9.7	
70	(70)	1、2年生のときに受けた授業では、自分の考えや気持ちなどを英語で書く活動が行われていたと思いますか	39.3	43.3	-4.0	
71	(71)	1、2年生のときに受けた授業では、聞いたり読んだりしたことについて、生徒同士で英語で問答したり意見を述べ合ったりする活動が行われていたと思いますか	37.9	41.7	-3.8	
72	(72)	1、2年生のときに受けた授業では、聞いたり読んだりしたことについて、その内容を英語で書いてまとめたり自分の考えを英語で書いたりする活動が行われていたと思いますか	33.1	37.0	-3.9	
73	(国1)	今回の国語の問題では、解答を文章で書く問題がありました。それらの問題について、どのように解答しましたか	76.0	74.3	1.7	
74	(国2)	解答時間は十分でしたか(国語)	35.6	33.7	1.9	
75	(数1)	今回の数学の問題では、解答を言葉や数、式を使って説明する問題がありました。それらの問題について、どのように解答しましたか	58.3	57.1	1.2	
76	(数2)	解答時間は十分でしたか(数学)	34.5	42.0	-7.5	
77	(英1)	今回の英語の問題では、まとまりのある文章を書く問題がありました。その問題について、どのように解答しましたか	18.1	22.2	-4.1	
78	(英2)	解答時間は十分でしたか(英語「聞くこと」「読むこと」「書くこと」)	24.0	29.0	-5.0	
79	(話1)	今回の英語の問題では、聞いたことについてまとまりのある内容を話す問題がありました。その問題について、どのように解答しましたか	4.6	6.0	-1.4	
80	(話2)	解答時間は十分でしたか(英語「話すこと」)	13.0	15.1	-2.1	

（参考資料）(3)学校質問紙【小学校】の結果概要

本県，全国の数値は，自信をもって（「１．そう思う」「１．よくしている」など）回答している学校の割合（％）を示してある。

「学校質問紙」概要【小学校】（全国との差+5以上，－5以下に網掛け）

番号	質問番号	質問事項	県平均	全国平均	全国との差	自校
8	(8)	調査対象学年の児童は、熱意をもって勉強していると思いますか	28.9	25.8	3.1	
9	(9)	調査対象学年の児童は、授業中の私語が少なく、落ち着いていると思いますか	45.0	38.1	6.9	
10	(10)	調査対象学年の児童は、礼儀正しいと思いますか	35.5	31.3	4.2	
11	(11)	調査対象学年の児童に対して、前年度までに、将来就きたい仕事や夢について考えさせる指導をしましたか	35.9	20.4	15.5	
12	(12)	調査対象学年の児童に対して、前年度までに、学級全員で取り組んだり挑戦したりする課題やテーマを与えましたか	51.6	49.4	2.2	
13	(13)	調査対象学年の児童に対して、前年度までに、学校生活の中で、児童一人一人のよい点や可能性を見付け評価する（褒めるなど）取組を行いましたか	60.5	60.8	-0.3	
14	(14)	前年度に、教員が授業で問題を抱えている場合、率先してそのことについて話し合うことを行いましたか	50.3	38.0	12.3	
15	(15)	前年度に、教員が学級の問題を抱えている場合、ともに問題解決に当たることを行いましたか	64.5	55.8	8.7	
16	(16)	ICTを活用した校務の効率化（事務の軽減）の優良事例を十分に取り入れていますか	31.6	28.9	2.7	
17	(17)	ICTを活用した校務の効率化の一環として、クラウドを活用した校務の効率化（クラウドサービスを活用した保護者への連絡や、アンケートの実施、教職員等会議のオンライン化等）に取り組んでいますか	28.5	37.4	-8.9	
18	(18)	教育課程表（全体計画や年間指導計画等）について、各教科等の教育目標や内容の相互関連が分かるように作成していますか	57.1	42.3	14.8	
19	(19)	児童の姿や地域の現状等に関する調査や各種データなどに基づき、教育課程を編成し、実施し、評価して改善を図る一連のPDCAサイクルを確立していますか	49.0	39.2	9.8	
20	(20)	指導計画の作成に当たっては、教育内容と、教育活動に必要な人的・物的資源等を、地域等の外部の資源を含めて活用しながら効果的に組み合わせていますか	50.7	43.2	7.5	
21	(21)	言語活動について、国語科を要としつつ、各教科等の特質に応じて、学校全体として取り組んでいますか	47.1	40.5	6.6	
22	(22)	授業研究や事例研究等、実践的な研修を行っていますか	66.9	62.6	4.3	
23	(23)	児童自ら学級やグループで課題を設定し、その解決に向けて話し合い、まとめ、表現するなどの学習活動を学ぶ校内研修を行っていますか	41.0	33.3	7.7	
24	(24)	個々の教員が自らの専門性を高めるため、校外の各教科等の教育に関する研究会等に定期的・継続的に参加していますか（オンラインでの参加を含む）	32.5	24.6	7.9	
25	(25)	校内研修の計画立案、その他の研修に関する業務を行う校務分掌を、誰が担っていますか（管理職を除く）	15.5	11.4	4.1	
26	(26)	調査対象学年の児童は、授業では、課題の解決に向けて、自分で考え、自分から取り組むことができていると思いますか	26.5	21.4	5.1	
27	(27)	調査対象学年の児童は、授業において、自らの考えがうまく伝わるよう、資料や文章、話の組立てなどを工夫して、発言や発表を行うことができていると思いますか	18.3	13.2	5.1	
28	(28)	調査対象学年の児童は、学級やグループでの話合いなどの活動で、自分の考えを相手にしっかりと伝えることができていると思いますか	25.5	20.4	5.1	
29	(29)	調査対象学年の児童は、学級やグループでの話合いなどの活動で、自分の考えを深めたり、広げたりすることができていると思いますか	21.2	17.4	3.8	
30	(30)	調査対象学年の児童は、学級やグループでの話合いなどの活動で、相手の考えを最後まで聞くことができていると思いますか	38.2	33.2	5.0	
31	(31)	調査対象学年の児童に対して、前年度までに、学習指導において、児童一人一人に応じて、学習課題や活動を工夫しましたか	39.3	27.8	11.5	
32	(32)	調査対象学年の児童に対して、前年度までに、児童が、それぞれのよさを生かしながら、他者と情報交換して話し合ったり、異なる視点から考えたり、協力し合ったりできるように学習課題や活動を工夫しましたか	37.8	30.6	7.2	
33	(33)	調査対象学年の児童に対して、前年度までに、授業において、児童自ら学級やグループで課題を設定し、その解決に向けて話し合い、まとめ、表現するなどの学習活動を取り入れましたか	36.1	30.3	5.8	
34	(34)	調査対象学年の児童に対して、前年度までに、習得・活用及び探究の学習過程を見通した指導方法の改善及び工夫をしましたか	31.8	20.9	10.9	
35	(35)	調査対象学年の児童に対して、前年度までに、各教科等で身に付けたことを、様々な課題の解決に生かすことができるような機会を設けましたか	25.5	18.3	7.2	
36	(36)	調査対象学年の児童に対する指導に関して、前年度に、本やインターネット、図書館資料などを活用した授業を計画的に行いましたか	58.0	42.9	15.1	
37	(37)	調査対象学年の児童に対して、総合的な学習の時間において、課題の設定からまとめ・表現に至る探究の過程を意識した指導をしていますか	43.1	35.7	7.4	

番号	質問番号	質問事項	県平均	全国平均	全国との差	自校
38	(38)	調査対象学年の児童に対して、学級生活をよりよくするために、学級会で話し合い、互いの意見のよさを生かして解決方法等を合意形成できるような指導を行っていますか	35.2	38.1	-2.9	
39	(39)	調査対象学年の児童に対して、学級活動の授業を通して、今、努力すべきことを学級での話合いを生かして、一人一人の児童が意思決定できるような指導を行っていますか	33.1	32.4	0.7	
40	(40)	調査対象学年の児童に対して、特別の教科 道徳において、取り上げる題材を児童自らが自分自身の問題として捉え、考え、話し合うような指導の工夫をしていますか	45.9	36.2	9.7	
41	(41)	調査対象学年の児童に対して、前年度までに、学習評価の方針を示した上で、児童の学習評価の結果を、その後の教員の指導改善や児童の学習改善に生かすことを心がけましたか	38.2	28.1	10.1	
42	(42)	調査対象学年の児童に対する国語の授業において、前年度までに、自分と相手との間に好ましい関係を築き、継続させるといった言葉の働きに気付くことができるような指導を行いましたか	36.1	30.0	6.1	
43	(43)	調査対象学年の児童に対する国語の授業において、前年度までに、互いの立場や意図を明確にしながら計画的に話し合い、異なる意見を自分の考えに生かして考えをまとめることができるような指導を行いましたか	32.7	27.9	4.8	
44	(44)	調査対象学年の児童に対する国語の授業において、前年度までに、互いの書いた文章に対する感想や意見を伝え合い、自分の文章のよいところを見付けることができるような指導を行いましたか	44.6	32.0	12.6	
45	(45)	調査対象学年の児童に対する国語の授業において、前年度までに、登場人物の人物像や物語の全体像を具体的に想像し、表現の効果を考えて読むことができるような指導を行いましたか	39.3	36.9	2.4	
46	(46)	調査対象学年の児童に対する算数の授業において、前年度までに、実生活における事象との関連を図った授業を行いましたか	31.4	26.8	4.6	
47	(47)	調査対象学年の児童に対する算数の授業において、前年度までに、具体的な物を操作するなどの体験を伴う学習を通して、数量や図形について実感を伴った理解をする活動を行いましたか	42.0	35.7	6.3	
48	(48)	調査対象学年の児童に対する算数の授業において、前年度までに、公式やきまり、計算の仕方等を指導するとき、児童がそのわけを理解できるように工夫していましたか	52.7	45.1	7.6	
49	(49)	学校として外国語教育の充実に取り組む上で、必要な情報や研修、自己研鑽の機会等を十分に設けていますか	21.9	15.2	6.7	
50	(50)	英語の授業以外にも児童が英語に触れる機会(イングリッシュキャンプ、English Day、昼休みの英語での放送等)をどの程度設けていますか	10.4	6.6	3.8	
51	(51)	家庭学習の課題(宿題)として、児童にPC・タブレットなどのICT機器を使用して、英語の学習をどの程度行わせていますか	2.1	1.6	0.5	
52	(52)	前年度に、教員が大型提示装置等(プロジェクター、電子黒板等)のICT機器を活用した授業を1クラス当たりどの程度行いましたか	77.7	72.7	5.0	
53	(53)	教員がコンピュータなどのICT機器の使い方を学ぶために必要な研修機会がありますか	74.1	65.1	9.0	
54	(54)	コンピュータなどのICT機器の活用に関して、学校内外において十分に必要なサポートが受けられていますか	38.9	37.7	1.2	
55	(55)	調査対象学年の児童に対して、前年度までに、児童一人一人に配備されたPC・タブレットなどのICT機器を、授業でどの程度活用しましたか	75.8	65.2	10.6	
56	(56)	調査対象学年の児童が自分で調べる場面(ウェブブラウザによるインターネット検索等)では、児童一人一人に配備されたPC・タブレットなどのICT機器をどの程度使用させていますか	38.6	29.1	9.5	
57	(57)	調査対象学年の児童が自分の考えをまとめ、発表・表現する場面では、児童一人一人に配備されたPC・タブレットなどのICT機器をどの程度使用させていますか	31.6	16.8	14.8	
58	(58)	教職員と調査対象学年の児童がやりとりする場面では、児童一人一人に配備されたPC・タブレットなどのICT機器をどの程度使用させていますか	38.2	29.3	8.9	
59	(59)	調査対象学年の児童同士がやりとりする場面では、児童一人一人に配備されたPC・タブレットなどのICT機器をどの程度使用させていますか	26.8	16.4	10.4	
60	(60)	調査対象学年の児童が自分の特性や理解度・進度に合わせて課題に取り組む場面では、児童一人一人に配備されたPC・タブレットなどのICT機器をどの程度使用させていますか	24.6	16.0	8.6	
61	(61)	前年度に、児童一人一人に配備されたPC・タブレットなどのICT機器を使って、児童が学校外の施設(他の学校や社会教育施設、民間企業等)にいる人々とやりとりする取組をどの程度実施しましたか	2.3	1.1	1.2	
62	(62)	教職員と家庭との間で連絡を取り合う場面で、コンピュータなどのICT機器をどの程度活用していますか	15.3	27.7	-12.4	
63	(63)	児童一人一人に配備されたPC・タブレットなどの端末を、どの程度家庭で利用できるようにしていますか	4.5	18.6	-14.1	
64	(64-1)	児童一人一人に配備されたPC・タブレットなどのICT機器について、次のような用途でどの程度活用していますか。(1)不登校児童に対する学習活動等の支援	7.9	18.0	-10.1	
65	(64-2)	児童一人一人に配備されたPC・タブレットなどのICT機器について、次のような用途でどの程度活用していますか。(2)特別な支援を要する児童に対する学習活動等の支援	34.6	31.3	3.3	
66	(64-3)	児童一人一人に配備されたPC・タブレットなどのICT機器について、次のような用途でどの程度活用していますか。(3)外国人児童に対する学習活動等の支援	1.7	8.0	-6.3	
67	(64-4)	児童一人一人に配備されたPC・タブレットなどのICT機器について、次のような用途でどの程度活用していますか。(4)児童の心身の状況の把握	18.0	28.6	-10.6	
68	(64-5)	児童一人一人に配備されたPC・タブレットなどのICT機器について、次のような用途でどの程度活用していますか。(5)児童に対するオンラインを活用した相談・支援	2.3	6.0	-3.7	
69	(65)	障害のある児童が一人一人に配備されたPC・タブレットなどのICT機器を活用する際、入出力支援装置等を活用し、障害種・障害の状態や特性及び心身の発達の段階等に応じた支援を実施しましたか	3.0	4.9	-1.9	
70	(66)	学校の教員は、特別支援教育について理解し、前年度までに、調査対象学年の児童に対する授業の中で、児童の特性に応じた指導上の工夫(板書や説明の仕方、教材の工夫等)を行いましたか	46.9	43.9	3.0	

番号	質問番号	質問事項	県平均	全国平均	全国との差	自校
71	(67)	前年度までに、近隣等の中学校と、教科の教育課程の接続や、教科に関する共通の目標設定等、教育課程に関する共通の取組を行いましたか	30.4	18.5	11.9	
72	(68)	前年度までに、近隣等の中学校と、授業研究を行うなど、合同で研修を行いましたか	28.9	19.0	9.9	
73	(69)	令和4年度の全国学力・学習状況調査の分析結果について、近隣等の中学校と成果や課題を共有しましたか	19.7	15.0	4.7	
74	(70)	職場見学を行っていますか	40.1	39.6	0.5	
75	(71)	教育課程の趣旨について、家庭や地域との共有を図る取組を行っていますか	28.9	24.8	4.1	
76	(72)	保護者や地域の人が学校の美化、登下校の見守り、学習・部活動支援、放課後支援、学校行事の運営等の活動に参加していますか	62.4	56.5	5.9	
77	(73)	(72)の質問にあるような、保護者や地域の人との協働による取組は、教員の業務負担軽減に効果がありましたか	23.4	24.8	-1.4	
78	(74)	コミュニティ・スクールや地域学校協働活動等の取組によって、学校と地域や保護者の相互理解は深まりましたか	33.5	27.3	6.2	
79	(75)	調査対象学年の児童に対して、前年度までに、家庭学習の課題の課し方について、校内の教職員で共通理解を図りましたか	47.6	39.6	8.0	
80	(76)	調査対象学年の児童に対して、前年度までに、学校では、家庭での学習方法等を具体例を挙げながら教えましたか	51.4	44.0	7.4	
81	(77)	調査対象学年の児童に対して、前年度までに、学校では、児童が行った家庭学習の課題について、その後の教員の指導改善や児童の学習改善に生かしましたか	43.3	30.5	12.8	
82	(78)	令和4年度全国学力・学習状況調査の自校の結果について、調査対象学年・教科だけではなく、学校全体で教育活動を改善するために活用しましたか	55.0	33.1	21.9	
83	(79)	全国学力・学習状況調査の結果を地方公共団体における独自の学力調査の結果と併せて分析し、具体的な教育指導の改善や指導計画等への反映を行っていますか	49.0	31.8	17.2	
84	(80)	令和4年度全国学力・学習状況調査の自校の結果について、保護者や地域の人たちに対して公表や説明をどの程度行いましたか(学校のホームページや学校だよりなどへの掲載、保護者会等での説明を含む)	42.7	22.8	19.9	
85	(81-1)	調査対象学年の児童に対して、前年度に、次の学校教育活動をどのように実施しましたか。(1)運動会・競技会・球技会	2.8	2.0	0.8	
86	(81-2)	調査対象学年の児童に対して、前年度に、次の学校教育活動をどのように実施しましたか。(2)音楽会・合唱コンクール	4.0	1.5	2.5	
87	(81-3)	調査対象学年の児童に対して、前年度に、次の学校教育活動をどのように実施しましたか。(3)学芸会・文化祭	10.2	3.3	6.9	
88	(81-4)	調査対象学年の児童に対して、前年度に、次の学校教育活動をどのように実施しましたか。(4)遠足	41.0	22.0	19.0	
89	(81-5)	調査対象学年の児童に対して、前年度に、次の学校教育活動をどのように実施しましたか。(5)芸術鑑賞会	17.8	12.5	5.3	
90	(81-6)	調査対象学年の児童に対して、前年度に、次の学校教育活動をどのように実施しましたか。(6)職場見学	8.1	6.0	2.1	
91	(81-7)	調査対象学年の児童に対して、前年度に、次の学校教育活動をどのように実施しましたか。(7)集団宿泊活動(修学旅行も含む)	30.6	18.7	11.9	
92	(81-8)	調査対象学年の児童に対して、前年度に、次の学校教育活動をどのように実施しましたか。(8)授業参観・学校公開	25.1	8.2	16.9	

（参考資料）(4)学校質問紙【中学校】の結果概要

本県，全国の数値は，自信をもって（「1．そう思う」「1．よくしている」など）回答している学校の割合（%）を示してある。

「学校質問紙」概要【中学校】（全国との差+5以上，－5以下に網掛け）

番号	質問番号	質問事項	県平均	全国平均	全国との差	自校
8	(8)	調査対象学年の生徒は、熱意をもって勉強していると思いますか	19.4	22.2	-2.8	
9	(9)	調査対象学年の生徒は、授業中の私語が少なく、落ち着いていると思いますか	53.1	55.7	-2.6	
10	(10)	調査対象学年の生徒は、礼儀正しいと思いますか	48.8	43.5	5.3	
11	(11)	調査対象学年の生徒に対して、前年度までに、将来就きたい仕事や夢について考えさせる指導をしましたか	50.2	49.5	0.7	
12	(12)	調査対象学年の生徒に対して、前年度までに、学級全員で取り組んだり挑戦したりする課題やテーマを与えましたか	38.4	44.6	-6.2	
13	(13)	調査対象学年の生徒に対して、前年度までに、学校生活の中で、生徒一人一人のよい点や可能性を見付け評価する（褒めるなど）取組を行いましたか	56.9	54.8	2.1	
14	(14)	前年度に、教員が授業で問題を抱えている場合、率先してそのことについて話し合うことを行いましたか	38.4	26.4	12.0	
15	(15)	前年度に、教員が学級の問題を抱えている場合、ともに問題解決に当たることを行いましたか	56.9	43.5	13.4	
16	(16)	ICTを活用した校務の効率化（事務の軽減）の優良事例を十分に取り入れていますか	25.1	26.9	-1.8	
17	(17)	ICTを活用した校務の効率化の一環として、クラウドを活用した校務の効率化（クラウドサービスを活用した保護者への連絡や、アンケートの実施、教職員等会議のオンライン化等）に取り組んでいますか	34.6	37.5	-2.9	
18	(18)	教育課程表（全体計画や年間指導計画等）について、各教科等の教育目標や内容の相互関連が分かるように作成していますか	45.0	39.3	5.7	
19	(19)	生徒の姿や地域の現状等に関する調査や各種データなどに基づき、教育課程を編成し、実施し、評価して改善を図る一連のPDCAサイクルを確立していますか	37.9	35.4	2.5	
20	(20)	指導計画の作成に当たっては、教育内容と、教育活動に必要な人的・物的資源等を、地域等の外部の資源を含めて活用しながら効果的に組み合わせていますか	30.8	29.2	1.6	
21	(21)	言語活動について、国語科を要としつつ、各教科等の特質に応じて、学校全体として取り組んでいますか	35.1	33.3	1.8	
22	(22)	授業研究や事例研究等、実践的な研修を行っていますか	50.2	45.2	5.0	
23	(23)	生徒自ら学級やグループで課題を設定し、その解決に向けて話し合い、まとめ、表現するなどの学習活動を学ぶ校内研修を行っていますか	24.6	27.3	-2.7	
24	(24)	個々の教員が自らの専門性を高めるため、校外の各教科等の教育に関する研究会等に定期的・継続的に参加していますか（オンラインでの参加を含む）	20.9	20.8	0.1	
25	(25)	校内研修の計画立案、その他の研修に関する業務を行う校務分掌を、誰が担っていますか（管理職を除く）	24.2	16.9	7.3	
26	(26)	調査対象学年の生徒は、授業では、課題の解決に向けて、自分で考え、自分から取り組むことができていると思いますか	17.1	19.2	-2.1	
27	(27)	調査対象学年の生徒は、授業において、自らの考えがうまく伝わるよう、資料や文章、話の組立てなどを工夫して、発言や発表を行うことができていると思いますか	10.4	14.6	-4.2	
28	(28)	調査対象学年の生徒は、学級やグループでの話合いなどの活動で、自分の考えを相手にしっかりと伝えることができていると思いますか	19.4	22.2	-2.8	
29	(29)	調査対象学年の生徒は、学級やグループでの話合いなどの活動で、自分の考えを深めたり、広げたりすることができていると思いますか	12.8	20.3	-7.5	
30	(30)	調査対象学年の生徒は、学級やグループでの話合いなどの活動で、相手の考えを最後まで聞くことができていると思いますか	37.0	43.5	-6.5	
31	(31)	調査対象学年の生徒に対して、前年度までに、学習指導において、生徒一人一人に応じて、学習課題や活動を工夫しましたか	24.2	24.6	-0.4	
32	(32)	調査対象学年の生徒に対して、前年度までに、生徒が、それぞれのよさを生かしながら、他者と情報交換して話し合ったり、異なる視点から考えたり、協力し合ったりできるように学習課題や活動を工夫しましたか	20.9	28.7	-7.8	
33	(33)	調査対象学年の生徒に対して、前年度までに、授業において、生徒自ら学級やグループで課題を設定し、その解決に向けて話し合い、まとめ、表現するなどの学習活動を取り入れましたか	19.0	25.3	-6.3	
34	(34)	調査対象学年の生徒に対して、前年度までに、習得・活用及び探究の学習過程を見通した指導方法の改善及び工夫をしましたか	18.5	19.6	-1.1	
35	(35)	調査対象学年の生徒に対して、前年度までに、各教科等で身に付けたことを、様々な課題の解決に生かすことができるような機会を設けましたか	14.2	14.0	0.2	
36	(36)	調査対象学年の生徒に対する指導に関して、前年度に、本やインターネット、図書館資料などを活用した授業を計画的に行いましたか	28.0	26.1	1.9	
37	(37)	調査対象学年の生徒に対して、総合的な学習の時間において、課題の設定からまとめ・表現に至る探究の過程を意識した指導をしていますか	31.8	38.0	-6.2	
38	(38)	調査対象学年の生徒に対して、学級生活をよりよくするために、学級活動で話し合い、互いの意見のよさを生かして解決方法等を合意形成できるような指導を行っていますか	28.9	35.5	-6.6	
39	(39)	調査対象学年の生徒に対して、学級活動の授業を通して、今、努力すべきことを学級での話合いを生かして、一人一人の生徒が意思決定できるような指導を行っていますか	26.1	30.0	-3.9	

番号	質問番号	質問事項	県平均	全国平均	全国との差	自校
40	(40)	調査対象学年の生徒に対して、特別の教科 道徳において、取り上げる題材を生徒自らが自分自身の問題として捉え、考え、話し合うような指導の工夫をしていますか	36.5	42.8	-6.3	
41	(41)	調査対象学年の生徒に対して、前年度までに、学習評価の方針を示した上で、生徒の学習評価の結果を、その後の教員の指導改善や生徒の学習改善に生かすことを心がけましたか	34.6	39.9	-5.3	
42	(42)	調査対象学年の生徒に対する国語の授業において、前年度までに、行書の基礎的な書き方(「点画の連続」や「点画の省略」、「筆順の変化」など)を理解して書くことができるような指導を行いましたか	25.1	21.2	3.9	
43	(43)	調査対象学年の生徒に対する国語の授業において、前年度までに、自分の考えを分かりやすく伝えるために、聞き手の立場に立って効果的な話し方を工夫することができるような指導を行いましたか	27.5	32.7	-5.2	
44	(44)	調査対象学年の生徒に対する国語の授業において、前年度までに、自分の考えが伝わる文章になるように、根拠を明確にするために必要な情報を資料から引用して書くことができるような指導を行いましたか	36.5	37.5	-1.0	
45	(45)	調査対象学年の生徒に対する国語の授業において、前年度までに、文学的な文章を読み、場面の展開や登場人物の心情の変化などについて、描写を基に捉えることができるような指導を行いましたか	42.7	54.2	-11.5	
46	(46)	調査対象学年の生徒に対する数学の授業において、前年度までに、実生活における事象との関連を図った授業を行いましたか	21.3	22.1	-0.8	
47	(47)	調査対象学年の生徒に対する数学の授業において、前年度までに、観察や操作、実験等の活動を通して、数量や図形等の性質を見いだす活動を行いましたか	19.4	22.2	-2.8	
48	(48)	調査対象学年の生徒に対する数学の授業において、前年度までに、公式やきまりなどを指導するとき、生徒がその根拠を理解できるように工夫していましたか	44.5	48.4	-3.9	
49	(49)	調査対象学年の生徒に対する英語の授業において、前年度までに、英語を聞いて(一文一文ではなく全体の)概要や要点を捉える言語活動を行いましたか	40.3	38.4	1.9	
50	(50)	調査対象学年の生徒に対する英語の授業において、前年度までに、英語を読んで(一文一文ではなく全体の)概要や要点を捉える言語活動を行いましたか	37.0	43.0	-6.0	
51	(51)	調査対象学年の生徒に対する英語の授業において、前年度までに、原稿などの準備をすることなく、(即興で)自分の考えや気持ちなどを英語で伝え合う言語活動を行いましたか	19.0	23.7	-4.7	
52	(52)	調査対象学年の生徒に対する英語の授業において、前年度までに、スピーチやプレゼンテーションなど、まとまった内容を英語で発表する言語活動を行いましたか	25.1	32.4	-7.3	
53	(53)	調査対象学年の生徒に対する英語の授業において、前年度までに、自分の考えや気持ちなどを英語で書く言語活動を行いましたか	29.4	34.8	-5.4	
54	(54)	調査対象学年の生徒に対する英語の授業において、前年度までに、聞いたり読んだりしたことについて、生徒同士で英語で問答したり意見を述べ合ったりする言語活動を行いましたか	19.9	24.3	-4.4	
55	(55)	調査対象学年の生徒に対する英語の授業において、前年度までに、聞いたり読んだりしたことについて、その内容を英語で書いてまとめたり自分の考えを英語で書いたりする言語活動を行いましたか	15.6	19.2	-3.6	
56	(56)	英語担当教員とALT(外国語指導助手)との間で、授業のねらいや活動の意図、各学級や一人一人の生徒の実態等について共通認識を持ち、協力して授業を行うことができていると思いますか	55.5	53.5	2.0	
57	(57)	全国学力・学習状況調査の調査問題や結果を踏まえて、言語活動の充実等の授業改善や、定期考査問題やパフォーマンステストの改善等の学習評価の改善に取り組んでいますか	30.8	27.9	2.9	
58	(58)	英語の授業以外にも生徒が英語に触れる機会(イングリッシュキャンプ、English Day、昼休みの英語での放送等)をどの程度設けていますか	7.1	3.2	3.9	
59	(59)	家庭学習の課題(宿題)として、生徒にPC・タブレットなどのICT機器を使用して、英語の学習をどの程度行わせていますか	3.3	4.8	-1.5	
60	(60)	前年度に、教員が大型提示装置等(プロジェクター、電子黒板等)のICT機器を活用した授業を1クラス当たりどの程度行いましたか	66.4	71.8	-5.4	
61	(61)	教員がコンピュータなどのICT機器の使い方を学ぶために必要な研修機会がありますか	65.9	54.3	11.6	
62	(62)	コンピュータなどのICT機器の活用に関して、学校内外において十分に必要なサポートが受けられていますか	29.4	30.8	-1.4	
63	(63)	調査対象学年の生徒に対して、前年度までに、生徒一人一人に配備されたPC・タブレットなどのICT機器を、授業でどの程度活用しましたか	56.9	62.6	-5.7	
64	(64)	調査対象学年の生徒が自分で調べる場面(ウェブブラウザによるインターネット検索等)では、生徒一人一人に配備されたPC・タブレットなどのICT機器をどの程度使用させていますか	24.2	28.9	-4.7	
65	(65)	調査対象学年の生徒が自分の考えをまとめ、発表・表現する場面では、生徒一人一人に配備されたPC・タブレットなどのICT機器をどの程度使用させていますか	18.0	15.9	2.1	
66	(66)	教職員と調査対象学年の生徒がやりとりする場面では、生徒一人一人に配備されたPC・タブレットなどのICT機器をどの程度使用させていますか	25.6	24.9	0.7	
67	(67)	調査対象学年の生徒同士がやりとりする場面では、生徒一人一人に配備されたPC・タブレットなどのICT機器をどの程度使用させていますか	14.2	12.4	1.8	
68	(68)	調査対象学年の生徒が自分の特性や理解度・進度に合わせて課題に取り組む場面では、生徒一人一人に配備されたPC・タブレットなどのICT機器をどの程度使用させていますか	11.8	12.2	-0.4	
69	(69)	前年度に、生徒一人一人に配備されたPC・タブレットなどのICT機器を使って、生徒が学校外の施設(他の学校や社会教育施設、民間企業等)にいる人々とやりとりする取組をどの程度実施しましたか	3.3	1.6	1.7	
70	(70)	教職員と家庭との間で連絡を取り合う場面で、コンピュータなどのICT機器をどの程度活用していますか	13.3	26.1	-12.8	
71	(71)	生徒一人一人に配備されたPC・タブレットなどの端末を、どの程度家庭で利用できるようにしていますか	7.1	22.6	-15.5	
72	(72-1)	生徒一人一人に配備されたPC・タブレットなどのICT機器について、次のような用途でどの程度活用していますか。(1)不登校生徒に対する学習活動等の支援	12.8	25.3	-12.5	
73	(72-2)	生徒一人一人に配備されたPC・タブレットなどのICT機器について、次のような用途でどの程度活用していますか。(2)特別な支援を要する生徒に対する学習活動等の支援	22.7	27.7	-5.0	
74	(72-3)	生徒一人一人に配備されたPC・タブレットなどのICT機器について、次のような用途でどの程度活用していますか。(3)外国人生徒に対する学習活動等の支援	2.4	7.6	-5.2	

番号	質問番号	質問事項	県平均	全国平均	全国との差	自校
75	(72-4)	生徒一人一人に配備されたPC・タブレットなどのICT機器について、次のような用途でどの程度活用していますか。(4)生徒の心身の状況の把握	12.8	28.0	-15.2	
76	(72-5)	生徒一人一人に配備されたPC・タブレットなどのICT機器について、次のような用途でどの程度活用していますか。(5)生徒に対するオンラインを活用した相談・支援	3.3	7.8	-4.5	
77	(73)	障害のある生徒が一人一人に配備されたPC・タブレットなどのICT機器を活用する際、入出力支援装置等を活用し、障害種・障害の状態や特性及び心身の発達の段階等に応じた支援を実施しましたか	1.9	4.4	-2.5	
78	(74)	学校の教員は、特別支援教育について理解し、前年度までに、調査対象学年の生徒に対する授業の中で、生徒の特性に応じた指導上の工夫(板書や説明の仕方、教材の工夫等)を行いましたか	43.1	43.7	-0.6	
79	(75)	前年度までに、近隣等の小学校と、教科の教育課程の接続や、教科に関する共通の目標設定等、教育課程に関する共通の取組を行いましたか	36.5	25.0	11.5	
80	(76)	前年度までに、近隣等の小学校と、授業研究を行うなど、合同で研修を行いましたか	40.3	27.6	12.7	
81	(77)	令和4年度の全国学力・学習状況調査の分析結果について、近隣等の小学校と成果や課題を共有しましたか	24.2	18.3	5.9	
82	(78)	調査対象学年の生徒に対して、前年度に、職場体験活動を何日程度行いましたか	55.5	45.9	9.6	
83	(79)	教育課程の趣旨について、家庭や地域との共有を図る取組を行っていますか	19.4	19.1	0.3	
84	(80)	保護者や地域の人が学校の美化、登下校の見守り、学習・部活動支援、放課後支援、学校行事の運営等の活動に参加していますか	35.1	26.4	8.7	
85	(81)	(80)の質問にあるような、保護者や地域の人との協働による取組は、教員の業務負担軽減に効果がありましたか	11.4	11.9	-0.5	
86	(82)	コミュニティ・スクールや地域学校協働活動等の取組によって、学校と地域や保護者の相互理解は深まりましたか	16.1	19.4	-3.3	
87	(83)	調査対象学年の生徒に対して、前年度までに、家庭学習の課題の課し方について、校内の教職員で共通理解を図りましたか	40.3	29.7	10.6	
88	(84)	調査対象学年の生徒に対して、前年度までに、学校では、家庭での学習方法等を具体例を挙げながら教えましたか	34.6	30.9	3.7	
89	(85)	調査対象学年の生徒に対して、前年度までに、学校では、生徒が行った家庭学習の課題について、その後の教員の指導改善や生徒の学習改善に生かしましたか	28.0	21.6	6.4	
90	(86)	令和4年度全国学力・学習状況調査の自校の結果について、調査対象学年・教科だけではなく、学校全体で教育活動を改善するために活用しましたか	37.9	24.7	13.2	
91	(87)	全国学力・学習状況調査の結果を地方公共団体における独自の学力調査の結果と併せて分析し、具体的な教育指導の改善や指導計画等への反映を行っていますか	37.9	24.0	13.9	
92	(88)	令和4年度全国学力・学習状況調査の自校の結果について、保護者や地域の人たちに対して公表や説明をどの程度行いましたか(学校のホームページや学校だよりなどへの掲載、保護者会等での説明を含む)	30.8	20.5	10.3	
93	(89-1)	調査対象学年の生徒に対して、前年度に、次の学校教育活動をどのように実施しましたか。(1)体育祭・競技会・球技会	5.7	5.6	0.1	
94	(89-2)	調査対象学年の生徒に対して、前年度に、次の学校教育活動をどのように実施しましたか。(2)音楽会・合唱コンクール	9.0	5.5	3.5	
95	(89-3)	調査対象学年の生徒に対して、前年度に、次の学校教育活動をどのように実施しましたか。(3)学芸会・文化祭	11.8	5.1	6.7	
96	(89-4)	調査対象学年の生徒に対して、前年度に、次の学校教育活動をどのように実施しましたか。(4)遠足	13.7	14.3	-0.6	
97	(89-5)	調査対象学年の生徒に対して、前年度に、次の学校教育活動をどのように実施しましたか。(5)芸術鑑賞会	16.1	10.7	5.4	
98	(89-6)	調査対象学年の生徒に対して、前年度に、次の学校教育活動をどのように実施しましたか。(6)職業体験活動	21.3	20.2	1.1	
99	(89-7)	調査対象学年の生徒に対して、前年度に、次の学校教育活動をどのように実施しましたか。(7)集団宿泊活動(修学旅行も含む)	29.9	20.4	9.5	
100	(89-8)	調査対象学年の生徒に対して、前年度に、次の学校教育活動をどのように実施しましたか。(8)授業参観・学校公開	30.3	12.3	18.0	